シラバス

＜35期生＞

八戸看護専門学校 看護学科

目　次

1. シラバスの活用の仕方・・・・・・・・・・ P1
2. 学生便覧参照項目・・・・・・・・・・ P2
3. 教育理念・教育目的・教育目標・期待される卒業生・・・・・・・・・・ P3
4.カリキュラムの基本概念・・・・・・・・・・ P5
5.教育課程の構造図　・・・・・・・・・・ P6
6.カリキュラム概念図　・・・・・・・・・・ P7
7.科目一覧　・・・・・・・・・・ P8
8. 各科目別シラバス

1）　基礎分野	講義概要・ねらい	
（1）科学的思考の基盤	論理的思考・・・・・・・・・・	科目コード1
	教育学・スタディスキル・・・・・・・・・・	2
	情報処理・・・・・・・・・・	3
	医療情報学・・・・・・・・・・	4
	人間工学・・・・・・・・・・	5
（2）人間と生活・社会の理解	人間関係論・・・・・・・・・・	6
	心理学・・・・・・・・・・	7
	日本文化・・・・・・・・・・	8
	社会・生活論・・・・・・・・・・	9
	法と人権・・・・・・・・・・	10
	スポーツと健康・・・・・・・・・・	11
	経済学・・・・・・・・・・	12
	外国語Ⅰ・・・・・・・・・・	13
	外国語Ⅱ・・・・・・・・・・	14
2）専門基礎分野	講義概要・ねらい	
（1）人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ：細胞、組織、骨格系、筋系・・・・・・・・・・	15
	解剖生理学Ⅱ：体液・血液、循環器系、免疫系・・・・・・・・・・	16
	解剖生理学Ⅲ：呼吸器系、消化・吸収・代謝系、腎・泌尿器系・・・・・・・・・・	17
	解剖生理学Ⅳ：内分泌系、感覚器系、生殖器系・・・・・・・・・・	18
	代謝栄養学・・・・・・・・・・	19
	病理学総論・・・・・・・・・・	20
（2）疾病の成り立ちと回復の促進	臨床微生物学・・・・・・・・・・	21
	病態論Ⅰ：運動器系疾患・・・・・・・・・・	22
	病態論Ⅱ：呼吸器系，血液・造血器系，免疫・アレルギー疾患・・・・・・・・・・	23
	病態論Ⅲ：循環器系疾患・・・・・・・・・・	24
	病態論Ⅳ：消化器系疾患・・・・・・・・・・	25
	病態論Ⅴ：代謝・内分泌系疾患・・・・・・・・・・	26
	病態論Ⅵ：腎・泌尿器系、生殖器系疾患・・・・・・・・・・	27
	病態論Ⅶ：脳・神経系疾患・・・・・・・・・・	28
	病態論Ⅷ：感覚器系疾患・・・・・・・・・・	29
	臨床薬理学・・・・・・・・・・	30
	治療法概説・・・・・・・・・・	31

(3)健康支援と社会制度	現代医療論	科目コード32
	看護関係法規	33
	公衆衛生学Ⅰ	34
	公衆衛生学Ⅱ	35
	社会福祉学Ⅰ	36
	社会福祉学Ⅱ	37
3) 専門分野		
(1)基礎看護学	講義概要・ねらい	
	基礎看護学概論	38
	共通基本技術Ⅰ:看護過程	39
	共通基本技術Ⅱ:ヘルスアセスメント	40
	共通基本技術Ⅲ:コミュニケーション、安全管理	41
	生活支援技術Ⅰ:活動と休息, 環境調整	42
	生活支援技術Ⅱ:食生活と排泄	43
	生活支援技術Ⅲ:清潔	44
	回復促進支援技術Ⅰ:検査と看護	45
	回復促進支援技術Ⅱ:呼吸循環を整えるための看護	46
	回復促進支援技術Ⅲ:治療・処置と看護	47
	臨床判断基礎	48
	看護倫理	49
	看護研究	50
(2)地域・在宅看護論	講義概要・ねらい	
	生活環境論	51
	地域・在宅看護の対象	52
	地域・在宅看護論概論	53
	在宅療養者の生活支援技術	54
	在宅療養者の健康状態に応じた看護	55
	ケア・コーディネート	56
(3)成人看護学	講義概要・ねらい	
	成人看護学概論	57
	成人看護援助論Ⅰ:主な治療と看護	58
	成人看護援助論Ⅱ:循環・内部環境・内分泌機能障害の看護	59
	成人看護援助論Ⅲ:呼吸・生体防御機能障害の看護	60
	成人看護援助論Ⅳ:消化吸収・栄養代謝・排泄・性生殖機能障害の看護	61
	成人看護援助論Ⅴ:脳神経・運動・感覚器機能障害の看護	62
(4)老年看護学	講義概要・ねらい	
	老年看護学概論	63
	高齢者の生活支援技術	64
	高齢者の健康課題・障害	65
	高齢者の疾患と看護の実践	66

（5）小児看護学	講義概要・ねらい	
	小児看護学概論・・	科目コード67
	小児の生活支援技術・・・	68
	小児の健康課題・障害と治療・・	69
	小児看護の実践・・	70
（6）母性看護学	講義概要・ねらい	
	母性看護学概論・・	71
	女性の健康課題・障害と治療・・	72
	周産期看護の実践Ⅰ・・・	73
	周産期看護の実践Ⅱ・・・	74
（7）精神看護学	講義概要・ねらい	
	精神看護学概論・・	75
	心の健康課題・障害と治療・・	76
	精神看護の基本技術・・・	77
	精神看護の実践・・	78
（8）看護の統合と実践	講義概要・ねらい	
	看護管理と医療安全・・・	79
	災害看護・・・	80
	国際看護・・・	81
	臨床判断実践・・・	82

8. 総合成績表
9. 試験管理表

シラバスの活用の仕方

　このシラバスには、3 年間で学ぶべきカリキュラムの内容が収められています。中でも特に講義に関する具体的内容がシラバス（講義要項）として収められています。全体に目を通し、何が書かれてあるのか、どのようなことを学ぶのか見て確認しましょう。主体的に積極的に学んでいくことが高等教育では必要です。3 年間大切に保管し、適時活用していってください。

　シラバスの最後の部分に「試験管理表」があります。試験結果を自分で記入し、自分自身で成績管理を行っていきましょう。看護師国家試験を踏まえると、平均点 75 点以上が国家試験合格の指標になっています。

　＜活用方法＞

- 教育理念・教育目標・期待される卒業生像をよく読んで、看護師としてどのような能力を身に付け、どのような看護師にならなければならないのかを理解しましょう。

- カリキュラムの基本概念・教育課程の構造図を見て、各科目の位置づけや関連性を理解し、学習が効果的に積み重なっていくようにしましょう。

- 学業をすすめる上での様々な規定が載っている「学生便覧」と「シラバス」は連動しています。関連するページを提示してありますので、合わせて見て行くようにしましょう。

- 各講義が始まる前に科目目標、学習内容などを確認しましょう。その科目はどういう目的で何を知識・技術として身に付けなければならないかがわかり、意欲的に講義に臨むことができます。また使用テキストも載っていますので準備し、予習・復習を行いましょう。

- 各科目の時間数、試験方法などを確認し、欠席・欠課が規定以上になり、試験が受けられないという事態が生じないようにしましょう。翌年再受講するとなると、修業年限が 4 年以上になる可能性があります。

- 各科目の担当講師に変更がある場合、別紙にて提示します。

学生便覧参照項目

1.　履修規程　P19

学則に基づき、教育課程の履修に関する必要事項を定めています。

単位修得の認定、試験・実習及び評価、出欠席に関して定められています。

2.　年次別教育目標　P21～22

各学年の目標を示しています。それぞれの目標を達成することで、専門職を目指す者として必要な能力を身につけ、そして、人間として成長して欲しいと思います。

卒業後は当校が期待する卒業生像を指標に、成長されることを切望します。

3.　カリキュラムの領域　P23

教育理念を達成するために教科課程と教科外課程から教育課程を編成しています。

その考え方を示しています。

4.　教育課程の編成　P23～27

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の考え方と科目設定の理由を示しています。

5.　教科外課程　P28

教科外課程の内容を示しています。

教育理念

本校は、保健・医療・福祉を通して地域社会の人々の幸せに貢献することを使命とした公益財団法人シルバーリハビリテーション協会（以下 SG グループ）を設置主体とする看護専門学校である。SG グループは、「ホスピタリティ」の精神を理念とし、保健・医療・福祉・教育を柱として、広く地域に貢献できることを目指している。

本校は、その使命と精神を基盤に、豊かな人間性の涵養に努め、専門職として科学的根拠を基盤とした看護実践をとおし、保健・医療・福祉の包括ケアに対応し、社会に貢献する人材を育成することを教育の理念としている。

教育目的

看護師として必要な専門知識及び技術を教授し、社会に貢献する有為な人材を育成する。

教育目標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解することができる。

看護の対象は身体的・精神的・社会的側面をもつ統合体であり、複雑・多様でひとり一人が異なる存在である。看護の対象をあらゆる側面から深く捉え、理解に努めながらケアしていかなければならない。対象を「患者」として捉えるのではなく、疾患や障害はその人の一部であり、地域社会の中で人と関わりながら生活を営む生活者として捉えることで、ひとり一人に寄り添った看護が提供できる。

2. 生命の尊厳を守り、個人の権利を尊重した看護を実践することができる。

看護者として何より大切なことは生命を護り、支え、慈しむことである。かけがえのない生命の価値を認識した行動ができる人間に成長しなければならない。そして、それは人間だけでなくすべてのいきものに対して培ってほしい人間性である。そのことが、対象がどのような状態にあっても、希望や権利を尊重した看護を実践できる人になると考える。その姿勢は日々の行動から培われていく。

3. 人々の健康上の問題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。

健康は、最高の健康状態から死までのあらゆる段階および水準がある。その人の持つ健康上の課題や問題を解決するためには、科学的根拠に基づいた看護の実践が必要である。科学的根拠とは、基礎的知識を活用し、論理的思考のもとに、対象に合わせた援助を判断し実践することである。

4. 人々の生涯にわたるあらゆる健康の状態、多様な生活の場に応じた看護を考えることができる。

看護は疾病をもった人だけが対象ではない。また病院だけが看護の提供の場ではない。看護は生命の誕生から死、時には死後までのすべての場面で必要とされる。また対象は個人だけではなく、その家族や関係する人をも含む。 その様々な背景を持つすべての人たちに対する健康の保

持増進、疾病の回復、安らかな死への援助などを実践する。その実践の場は生活の場に今後さらに移行していく。生活の場には様々な療養施設、学校、職場も含まれ、災害現場での看護の機会も増えていくことが想定される。地域で生活しながらどのような場においても、必要なときに必要な看護を提供できる力を養う。

5. 保健・医療・福祉における看護職の役割を理解し、チームの一員として多職種と連携・協働しながら看護を実践することができる。

人々が健康レベルを向上させたり、QOL を大切にした生活や人生を送るためには、保健・医療・福祉各分野が連携した支援が不可欠であり、多職種が協働している。互いの役割や機能の理解なくして連携は図れない。互いの職種の専門性を理解し、その中での看護師の役割を自覚し、コミュニケーションを図りながら協働していく能力を身につけなければならない。

6. 専門職業人としての自覚を持ち、自らの看護の質を高めるために、人間関係を築きながら、主体的に学び続けることができる。

日々進歩し変化していく医療、社会の仕組みや制度、人々の価値観に対応していくためには、学び続ける人でなくてはならない。学び続ける姿勢こそ専門職業人であり、質の高い看護の提供につながる。学びは主体性とともにある。学びは人との関係の中でこそ促進されていく。自己理解と他者理解に重きを置きながら、コミュニケーションの高いスキルを身につけたい。

期待される卒業生像

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解することができる。
2. 生命の尊厳を守り、個人の権利を尊重した看護を実践することができる。
3. 人々の健康上の問題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
4. 人々の生涯にわたるあらゆる健康の状態、多様な生活の場に応じた看護を考えることができる。
5. 保健・医療・福祉における看護職の役割を理解し、チームの一員として多職種と連携・協働しながら看護を実践することができる。
6. 専門職業人としての自覚をもち、自らの看護の質を高めるために、人間関係を築きながら主体的に学び続けることができる。

カリキュラムの基本概念

本校のカリキュラム編成にあたって、人間・環境・健康・看護・学習の5つを基本概念として設定する。

人間

1. 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された唯一無二の存在である。
2. 人間は、基本的欲求をもち、その欲求を充足しながら自己実現に向けて成長・発達を続ける存在である。
3. 人間は、環境との相互作用により絶えず変化しながら生活する存在である。
4. 人間は、それぞれが多様な価値観をもち、互いに認められ、尊重される基本的な権利をもつものである。

環境

1. 環境は、人間をとりまく全てのものである。
2. 環境と人間は相互に影響を及ぼし合い、健康状態を変化させる。
3. 環境は、個人および集団を取り囲み、その発達や行動、健康状態に影響を及ぼす。

健康

1. 健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態である。
2. 健康な状態とは、病気や障害があっても、その人の能力が十分に発揮されている状態である。
3. 健康は、環境との相互作用により常に変化するものである。
4. 健康と疾病（死）は連続的なものである。
5. 健康は、主観的・客観的に捉えることができ、健康の価値観は個別的なものである。
6. 健康は、主体的に取り組み自らつくるものである。

看護

1. 看護とは、人間が本来もつ自己治癒力を発揮しやすいように環境を整えることである。
2. 看護の対象は、あらゆる発達段階、あらゆる健康段階にある個人・家族・地域である。
3. 看護の場は、あらゆるヘルスケアの場および地域社会である。
4. 看護は、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和、その人らしく生を全うすることができるよう支援することである。
5. 看護は、科学的根拠を基盤に対象の健康上の課題を明らかにし、個別的に対応することである。
6. 看護は、対象との相互作用を通じて人間関係を形成する過程で行なわれる。
7. 看護は、保健・医療・福祉のチームの中で連携・協働し、専門職としての役割を果たすことである。

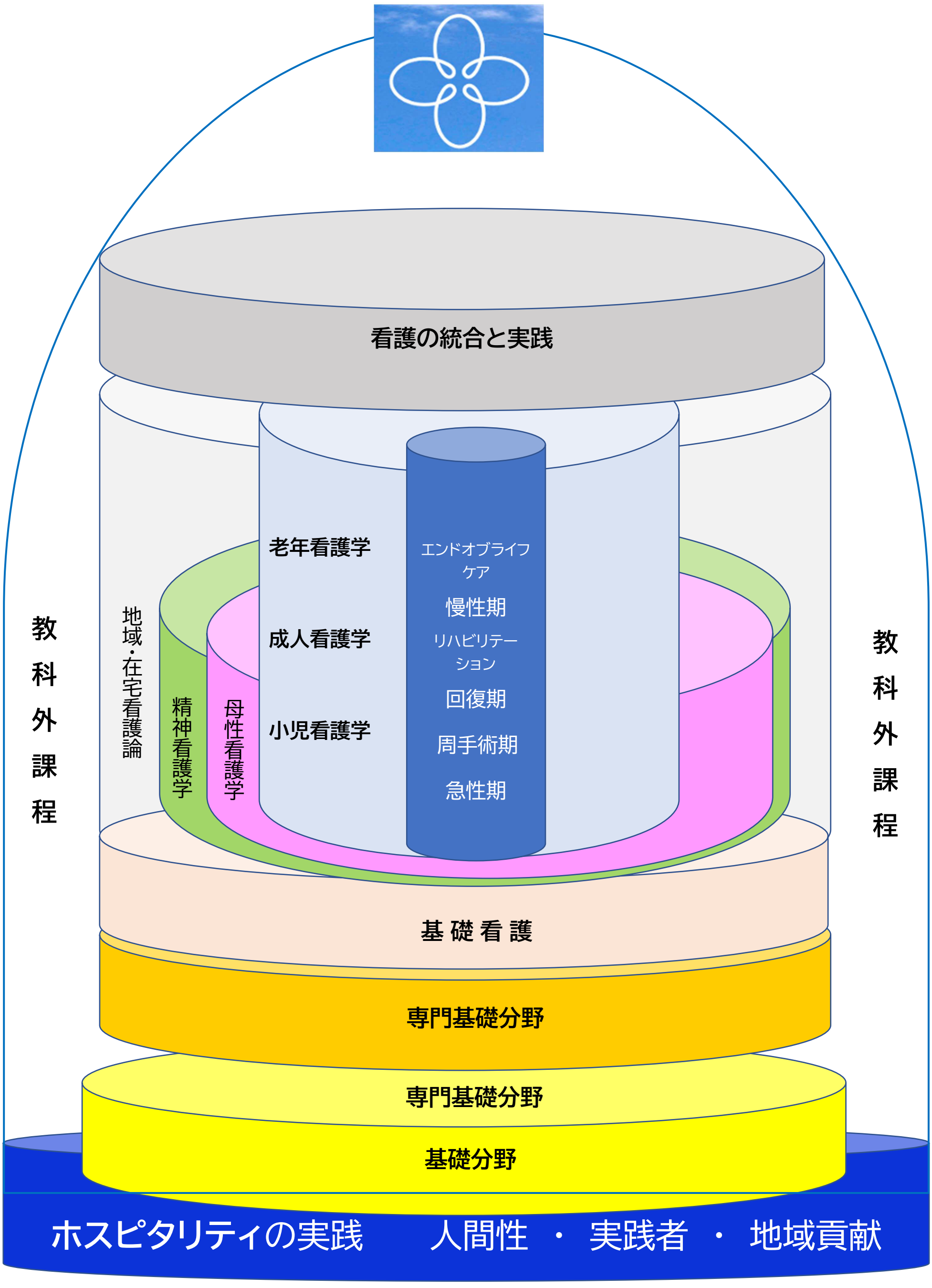
学習

1. 学習とは、学習者が主体的に学ぶことであり、内発的動機づけによって促進される。
2. 学習とは、環境との関連において個人が経験を通じて自己を変化させ成長していく過程である。
3. 学習とは、自主性を育み、創造性、判断力、問題解決能力を高める過程である。
4. 学習はグループダイナミックスの影響を受け変化する。
5. 学習者は、教育者との信頼に基づいた相互作用を通して共に成長する。

教育課程の構造図

専門分野
＜看護の統合と実践＞
看護管理と医療安全、災害看護、国際看護、臨床判断実践
統合実習
＜地域・在宅看護論＞
生活環境論
地域・在宅看護の対象
地域・在宅看護論概論
在宅療養者の生活支援技術
在宅療養者の健康状態に応じた看護
ケア・コーディネート
＜小児看護学＞
小児看護学概論
小児の生活支援技術
小児の健康課題・障害と治療
小児看護の実践
＜成人看護学＞
成人看護学概論
成人看護援助論Ⅰ
成人看護援助論Ⅱ
成人看護援助論Ⅲ
成人看護援助論Ⅳ
成人看護援助論Ⅴ
＜老年看護学＞
老年看護学概論
高齢者の生活支援技術
高齢者の健康課題・障害と治療
老年看護の実践
成人・老年 小児 母性 精神 地域・在宅 看護学（論）実習
＜母性看護学＞
母性看護学概論、女性の健康課題・障害と治療
周産期看護の実践Ⅰ，Ⅱ
＜精神看護学＞
精神看護学概論、心の健康課題・障害と治療
精神看護の基本技術、精神看護の実践
＜基礎看護学＞
基礎看護学概論，共通基本技術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ
生活支援技術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ
回復促進支援技術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ
臨床判断基礎、看護倫理、看護研究
基礎看護学実習
専門基礎分野
＜人体の構造と機能，疾病の成り立ちと回復の促進＞
解剖生理学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，代謝栄養学
病理学総論、臨床微生物学、病態論Ⅰ～Ⅷ
臨床薬理学、治療法概説
＜健康支援と社会保障制度＞
現代医療論、看護関係法規
公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ
社会福祉学Ⅰ、社会福祉学Ⅱ
基礎分野
＜科学的思考の基盤＞
論理的思考
教育学・スタディスキル
情報処理
人間工学
医療情報学
＜人間と生活・社会の理解＞
人間関係論
日本文化
経済学
スポーツと健康
外国語Ⅰ、外国語Ⅱ
心理学
社会・生活論
法と人権

カリキュラム概念図


看護の統合と実践
老年看護学
成人看護学
小児看護学
エンドオブライフケア
慢性期
リハビリテーション
回復期
周手術期
急性期
地域・在宅看護論
精神看護学
母性看護学
基 礎 看 護
専門基礎分野
専門基礎分野
基礎分野
教科外課程
教科外課程
ホスピタリティの実践
人間性 ・ 実践者 ・ 地域貢献

科 目 一 覧

	教育内容	授業科目		単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考		1	30
		教育学・スタディスキル		1	30
		情報処理		1	30
		医療情報学		1	15
		人間工学		1	30
	人間と生活・社会の理解	人間関係論		1	30
		心理学		1	30
		日本文化		1	15
		社会・生活論		1	30
		法と人権		1	30
		スポーツと健康		1	30
		経済学		1	15
		外国語Ⅰ	医療英語	1	30
		外国語Ⅱ	看護英会話	1	15
	基礎分野　小　計			14	360
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	細胞、組織、骨格系、筋系	1	30
		解剖生理学Ⅱ	体液・血液、循環器系、免疫系	1	30
		解剖生理学Ⅲ	呼吸器系、消化・吸収・代謝系、腎・泌尿器系	1	30
		解剖生理学Ⅳ	内分泌器系、感覚器系、神経系、生殖器系	1	30
		代謝栄養学		1	30
	疾病の成り立ちと回復促進	病理学総論		1	15
		臨床微生物学		1	30
		病態論Ⅰ	運動器系疾患	1	15
		病態論Ⅱ	呼吸器系、血液・造血器系、免疫・アレルギー疾患	1	30
		病態論Ⅲ	循環器系疾患	1	30
		病態論Ⅳ	消化器系疾患	1	30
		病態論Ⅴ	代謝・内分泌系疾患	1	15
		病態論Ⅵ	腎・泌尿器系、生殖器系疾患	1	30
		病態論Ⅶ	脳・神経系疾患	1	15
		病態論Ⅷ	感覚器系疾患	1	15
		臨床薬理学		1	30
		治療法概説		1	30
	健康支援と社会保障制度	現代医療論		1	15
		看護関係法規		1	15
		公衆衛生学Ⅰ		1	15
		公衆衛生学Ⅱ		1	15
		社会福祉学Ⅰ		1	15
		社会福祉学Ⅱ		1	15
	専門基礎分野　小　計			23	525
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論		1	30
		共通基本技術Ⅰ	看護過程	1	30
		共通基本技術Ⅱ	ヘルスアセスメント	1	30
		共通基本技術Ⅲ	コミュニケーション・安全管理	1	30
		生活支援技術Ⅰ	活動と休息，環境調整	1	30
		生活支援技術Ⅱ	食生活と排泄	1	30
		生活支援技術Ⅲ	清潔	1	30
		回復促進支援技術Ⅰ	検査と看護	1	15
		回復促進支援技術Ⅱ	呼吸循環を整えるための看護	1	15
		回復促進支援技術Ⅲ	治療・処置と看護	1	30
		臨床判断基礎		1	30
		看護倫理		1	15
		看護研究		1	30
	基礎看護学　小　計			13	345

	教育内容	授業科目		単位	時間
専門分野	地域・在宅看護論	生活環境論		1	15
		地域・在宅看護の対象		1	15
		地域・在宅看護論概論		1	15
		在宅療養者の生活支援技術		1	30
		在宅療養者の健康状態に応じた看護		1	30
		ケア・コーディネート		1	15
		地域・在宅看護論　小　計		6	120
	成人看護学	成人看護学概論		1	30
		成人看護援助論Ⅰ	主な治療と看護	1	30
		成人看護援助論Ⅱ	循環・内部環境・内分泌機能障害の看護	1	30
		成人看護援助論Ⅲ	呼吸・生体防御機能障害の看護	1	30
		成人看護援助論Ⅳ	消化吸収・栄養代謝・排泄・性生殖機能障害の看護	1	30
		成人看護援助論Ⅴ	脳神経・運動・感覚器機能障害の看護	1	30
		成人看護学　小　計		6	180
	老年看護学	老年看護学概論		1	30
		高齢者の生活支援技術		1	30
		高齢者の健康課題・障害と治療		1	15
		老年看護の実践		1	30
		老年看護学　小　計		4	105
	小児看護学	小児看護学概論		1	30
		小児の生活支援技術		1	30
		小児の健康課題・障害と治療		1	15
		小児看護の実践		1	30
		小児看護学　小　計		4	105
	母性看護学	母性看護学概論		1	30
		女性の健康課題・障害と治療		1	15
		周産期看護の実践Ⅰ	妊娠・分娩期の看護	1	30
		周産期看護の実践Ⅱ	新生児期・産褥期の看護	1	30
		母性看護学　小　計		4	105
	精神看護学	精神看護学概論		1	30
		心の健康課題・障害と治療		1	15
		精神看護の基本技術		1	15
		精神看護の実践		1	30
		精神看護学　小　計		4	90
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全		1	30
		災害看護		1	30
		国際看護		1	15
		臨床判断実践		1	30
		看護の統合と実践　小　計		4	105
	専門分野　小　計			45	1155
	臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
			基礎看護学実習Ⅱ	2	90
		地域・在宅看護論	地域で暮らす人の健康を支える看護	2	90
			在宅で療養する人の看護	2	90
		成人・老年看護学	急性期・周手術期にある人の看護	2	90
			回復期・慢性期にある人の看護	2	90
			リハビリテーションを必要とする人の看護	2	90
			エンドオブライフケアを必要とする人の看護	2	90
		小児看護学	子どもと家族の看護	2	90
		母性看護学	マタニティーサイクルにおける母子の看護	2	90
		精神看護学	精神に障害のある人の看護	2	90
		看護の統合と実践	統合実習	2	90
	専門分野　臨地実習　小計			23	1035

総計105単位　3075時間

6. 各科目別シラバス

基 礎 分 野

基礎分野

〈授業概要〉

基礎分野は「専門基礎分野」、「専門分野」及び「統合分野」の基礎として位置づけられ、看護者としての人間性の育成と、看護の土台となる人間や社会に対する知識・技術の習得を目指しており、「科学的思考の基盤」と「人間と生活・社会の理解」の学習内容で構成されている。

「科学的思考の基盤」は、科学的・論理的な思考力およびコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を目指す内容の科目で構成されている。「人間と生活・社会の理解」では、人間と社会との関係、社会の仕組みを幅広い視点で理解する内容や社会の情報化に対応するための知識と技術を学ぶ科目となっている。また、医療に携わるものとして人権の重要性を理解する内容も基礎分野で学ぶ。以上の内容は看護学の土台となるため、1 年次前期から後期にかけて学習を進めていく。

〇科学的思考の基盤

論理的な思考・判断・表現力を身に付けるとともに、主体的学習者としての学び方を習得していく科目が設定されている。また、これから学ぶ看護技術につながる工学的な人間や事象の捉え方、情報学について学ぶ科目、さらに、社会や医療の情報化に対応できるための知識と技術を学ぶ科目が設定されている。

科目名	ねらい
論理的思考	論理的に考え、推論し、書く力は学習の基礎であるとともに円滑なコミュニケーションの基礎でもある。考える、書く、正確に伝えるなどの方法について理解し、論理的にものごとをとらえ、表現する力を身に付ける。
教育学・スタディスキル	看護者としての職業観を形成し、成人学習者として自立して学んでいくために、教育と人間発達についての知識を持ち、主体的学習者として学んでいくスキルを習得する。
情報処理	情報化社会および国際化に対応できる能力を養うため、情報処理の正しい知識を持ち、情報検索やプレゼンテーションの方法を習得する。
医療情報学	保健・医療・福祉の現場で進む ICT の進展に対応するため、現代の医療システム、医療情報の管理や利用について正しく理解し、医療情報活用能力を身に付ける。
人間工学	看護技術を安全で安楽、効率的に実践するために、人間工学の基礎と人間の機能の特性について理解し、看護技術に適用する知識を身に付ける。

〇人間と生活・社会の理解

看護の対象である人間の理解とともに、看護者となる自己の理解と成長を図る学習内容である。また、人間の特性を理解し、相手の立場に立って考え、行動できる感性を磨くことを基盤とし、医療者としての適切な倫理観と高いコミュニケーション能力を身に付ける学習内容となっている。

さらに、看護の対象は社会で生活を営んでいる存在であり、社会のしくみや動向に目を向けグローバルな視点をもち、国際化、情報化に対応できる能力を養う科目が設定されている。

科目名	ねらい
人間関係論	看護者としての人間性の成長と人間関係づくりのため、人間関係形成の基礎知識、カウンセリングや人間関係を円滑にする方法を理解し、良好な関係をつくる力を身に付ける。
心理学	看護するうえで重要な他者理解と自己理解のために、人間の心理や行動の理論、ストレスのメカニズムについて理解し、臨床心理学に基づく心理的援助のための知識を身に付ける。
日本文化	感性を磨き、ホスピタリティ(おもてなし)のこころを体現した看護が実践できるために、日本文化の特質と作法を理解し、ソーシャルスキルとしてのマナーを習得する。
社会・生活論	社会的存在としての人間、生活者としての人間を理解するために、社会における様々な現象を客観的にとらえ、医療状況の変化、現代家族観の変容など幅広く理解し、社会学の視点で現代社会の課題を考察する。
法と人権	看護の基礎となる人権の重要性や倫理について理解するために、現代社会や医療における問題に対する法的思考、看護者としての基本的姿勢を学び、適切な倫理観と人権擁護の意識を身に付ける。
スポーツと健康	スポーツを健康の維持・増進・回復に向けた実践につなげるために、スポーツが心身にどのように影響するか理解し、運動の進め方、栄養や休養のとり方についての知識を身に付ける。
経済学	経済学の視点からこれからの看護の在り方を展望するために、少子高齢社会が経済に与える影響を理解し、日本が抱える諸問題や課題について認識する。
外国語Ⅰ・Ⅱ	拡大するグローバル化・国際化・情報化へ対応するために、日常生活および医療現場で用いる英語を学び、実践で活用できる英語力・英会話力を習得する。

科目コードNo.1

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 論理的思考	1年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	髙須　則行

学習目標	1.　物事を多角的に捉え、筋道立てて考えることの意義と方法を理解する。 2.　正しい思考の形式や法則をもとに、問題解決ができる能力を習得する。 3.　論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション力を習得する。
テキスト・ 参考文献	
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 論理的思考の概念 1）論理の概念 2）論理的思考の必要性 2. 論理的思考の方法論 1）認識の三段論法 2）演繹的思考と帰納的思考 3. 問題解決技法 1）問題の特性 2）問題解決のプロセス 4. 文章表現 1）文章の構造、文章の要約・編集・論作文 2）伝わる文章の書き方 3）口語表現と文章表現 5. 問題解決討議法 1）討議法の分類 2）ブレーン・ストーミング、KJ 法等の活用 6. レポート・論文の書き方 1）基本的約束事・引用・図示・情報提示の方式 2）小論文の構造、書き方 7. 学んだ手法の活用 1）ディベート 2）課題レポート作成	講義 演習

評価方法	後日提示
履修上の 留意点	

科目コード№.２

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 教育学・スタディスキル	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	木村　緑

学習目標	1.　学習・教育を人間の発達との関係性で理解する。 2.　学習・教育理論の基礎を理解する。 3.　専門職における生涯学習の意義と患者教育の基礎的知識を理解する。 4.　主体的学習者としての姿勢を身に付ける。
テキスト・参考文献	１．系統看護学講座　教育学　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1.　教育による発達の理論 発達段階の考え方、教育による発達から創造 2.　学習理論 学ぶ存在としての人間、学習とは何か 3.　教授 人を教えるということ 学ぶ・教えるということ、学びとコミュニケーション 4.　看護学生としての学び方 発見的学習、経験の考え方、自己効力理論、セルフマネジメント 5.　成人教育学 自己主導型学習、経験型実習教育 6.　スタディスキル１ 読む力、記述力、聴く力 7.　スタディスキル２ 発言する力、人間関係力	講義
8.　プレゼンテーション 「看護学生の主体的な学びとは」(演習)	演習
9.　教育評価 教育目標と評価 10.教育評価の活用 基準、自己評価・他者評価 11. 専門職における学習・教育 看護職における専門性、専門職としての生涯学習・継続教育 12. 看護の場における教育 基礎教育と継続教育、患者・家族教育 13. リフレクションの意義	
14. リフレクションの活用 「リフレクション」(GW 演習)	演習
15. 課題・レポート「看護学生の主体的な学びとは」	

評価方法	筆記試験　他
履修上の留意点	

科目コードNo.3

<table>
<tr><th colspan="2">授業科目</th><th>履修年次・学期</th><th>単位・時間</th><th>講師名</th></tr>
<tr><td colspan="2">基礎分野
情報処理</td><td>1年次・前期</td><td>1単位
30H(15 コマ)</td><td>馬場　祥次</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="4">1.　情報化社会に対応できる能力を養うため、情報処理の基本を身に付ける。
2.　研究発表や説明会のためのプレゼンテーションソフトとして PowerPoint、インターネットを用いた情報検索などの方法を習得する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・
参考文献</td><td colspan="4">1.　情報リテラシー　windows10/office2019　FOM 出版</td></tr>
<tr><td>事前・
事後学習</td><td colspan="4">＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義内容・
方法</td><td colspan="3">講義内容</td><td>講義方法</td></tr>
<tr><td colspan="3">1.　パソコンの基本構成とソフトウェア

2.　日本語入力

3.　文書処理1
Word の画面構成と基本操作、文字入力と編集など
4.　文書処理2
クリップアートや画像の貼り付け、図形描画など
5.　表計算1
画面構成と基本操作、簡単な関数の使い方、表の編集など
6.　表計算2
相対参照と絶対参照、関数の使い方など
7.　表計算3
Excel データベース、各種グラフなど
8.　PowerPoint1
画面構成と基本操作、PowerPoint の基礎知識
9.　PowerPoint2
スライドの編集、クリップアートや画像の利用
10. PowerPoint3
表やグラフの利用
11. 紹介プレゼンの作成と発表1

12. 紹介プレゼンの作成と発表2

13. 資料の収集
文献検索、引用、著作権
14. 情報の取り扱い
メールのマナー、個人情報と法的根拠</td><td>講義・演習</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">課題レポート　100%</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意点</td><td colspan="4">毎回、USB メモリー、教科書、配布物を持参すること。</td></tr>
</table>

科目コードNo.４

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 医療情報学	２年次・前期	1単位 15H(7コマ)	小野　保

学習目標	1.　医療における ICT 現状と今後について理解する。 2.　医療情報システムにおける情報リテラシーの基礎を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院 ＜参考文献＞ 1.　エッセンシャル看護情報学　医歯薬出版株式会社
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 医療情報学を学ぶ意義 1）情報とは 2）情報化社会の現状 2. 保健医療福祉と情報 1）医療における情報の種類 2）ヘルスプロモーションと情報 3. 医療における情報システム 1）病院情報システム 2）地域医療福祉のネットワークと情報システム 4. 看護における情報システム 1）看護における情報 2）病院看護における情報システム 5. 情報倫理と医療 1）情報倫理 2）医療倫理 6. 患者・利用者の権利と個人情報 1）患者の権利と診療情報の開示 2）医療従事者の責務 7. コンピューターリテラシーと情報セキュリティ 1）インターネットの基礎 2）リスクと自衛	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コード№5

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 人間工学	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	髙橋　晋

学習目標	1.　人間工学の基礎について理解する。 2.　人間機能の諸特性を理解する。 3.　複雑で多様な職場環境下で、看護作業を安全・快適で効率よく行うための知識を身につける。
テキスト・参考文献	1.　看護・介護を助ける姿勢と動作－イラストで学ぶボディメカニクス－　小川鑛一　著 東京電気大学出版局
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1.　人間工学の概要 人間と機械とその制御 2.　人間の生体システム 視覚、聴覚その他の感覚、人間の情報処理 3.　人間の生体システム 人体寸法、人間の骨格・筋肉 4.　動作と道具－手に関わる道具 5.　身体姿勢 6.　ボディメカニクス 力とベクトル、圧力、剪断力、摩擦 7.　生活と水 8.　テコの原理と力のモーメント 9.　おじぎとリンク機構、体位変換 10. 適切な動作速度、安全な介助技術 11. 疲労の分類と諸条件 12. 睡眠の必要性とサーカディアンリズム	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№6

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 人間関係論	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	坂本　玲子

学習目標	1.　人間を人との関係で生き、成長する存在としてとらえることができる。 2.　人間関係を円滑に保つ必要性と方法について理解する。 3.　看護の場における人間関係の重要性を理解し、良好な人間関係をつくる能力を身につける。 4.　人間関係において生じる問題を理解しながら、カウンセリングの基礎について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　人間関係を学ぶ心理学　杉野欽吾他著　福村出版
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 人間関係の基礎 1）人間関係とは 2）対人認知 3）対人コミュニケーション 2. 集団の中の人間関係 1）集団の成立 2）集団における対人関係 3. 人間関係の技法 1）交流分析 2）ロールプレイング 3）カウンセリングの技法 4. 患者との接し方からみる対人関係 臨床現場における共感的理解の実際 5. カウンセリングとは何か 6. カウンセリングの基礎理論 1）来談者中心療法 2）精神分析理論・行動理論 7. カウンセリングと精神医学 8. カウンセリングの方法 1）カウンセリングの流れ（初回面接・継続面接・集結） 2）ビデオで見るカウンセリングの実例 3）ロールプレイ 9. 医療現場におけるカウンセリング	講義 演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	カウンセリングを理解するには、知識の習得だけでなく体験的な学習が必要である。毎回出席することは勿論のこと、演習への積極的参加が望まれる。

科目コードNo.7

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 心理学	１年次・前期	１単位 30H（15 コマ）	遠藤　直子

学習目標	1.　心理学の諸分野についての概観を通して、人間の心理や行動に関する基本原理や関連する概念について理解する。 2.　学んだ知識を日常生活や看護の場面に当てはめて説明できるようにする。
テキスト・ 参考文献	テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。 参考図書：「初めて出会う心理学改訂版」　長谷川寿一　他著　有斐閣アルマ
事前・ 事後学習	＜共通＞配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	１．心理学とは ２．記憶の心理学 　１）短期記憶と長期記憶 　２）記憶の変容・忘却 　３）記憶の種類 ３．学習の心理学 　１）馴化 　２）古典的条件づけ 　３）オペラント条件づけ 　４）観察学習 ４．思考の心理学 　１）問題解決 　２）推論 　３）確率判断 　４）意思決定 ５．感覚・知覚の心理学 　１）感覚・知覚の特性 　　①視覚優位　②対比と同化　③順応と回復　④知覚的群化 　　⑤錯視	講義

評価方法	期末試験　100％
履修上の 留意点	

科目コード№8

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 日本文化	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	小山　隆秀・太田原　慶子 佐藤　菱里

学習目標	1.　日本文化の特質を理解する。 2.　よりよい人間関係を築くために必要なソーシャルスキルとしての現代マナーを習得する。 3.　一つひとつの所作の背景(理由や精神)について理解し、日本の文化に興味・関心をもつ。 4.　日本文化としての、思いやりや和のこころを体感し、理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　イラストでわかる礼儀作法基本テキスト　日本能率協会マネジメントセンター ※　必要物品はその都度提示
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 日本文化の特質 1）日本文化と歴史 2）日本の生活文化、言葉、文学や思想、伝統文化(茶道や華道) 2. 礼法の沿革 1）礼法とは 2）礼法の歴史 3）日本の礼儀作法 3. 基本動作と挨拶 1）姿勢、お辞儀、歩き方、立ち方、座る 2）挨拶のことば 4. 訪問とおもてなし(接待) 他家や企業の訪問ならびに迎える側の心得 5. 食事の作法 1）日本料理の基本、正しい箸の使い方 2）洋食・アルコールのマナー 6. 冠婚葬祭、見舞い 1）慶事の心得 2）披露宴での振舞い 3）見舞いの心得 7. その他の日常生活の心得 服装、電話応対、手紙の基本、美しいことば遣い 8. 美しい日本の文化の習得 季節の行事(五節句、五節句以外の年中行事)	1　2　講義 3～8 講義・演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コード№9

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 社会・生活論	1年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	八木沢 滋夫

学習目標	1. 社会的存在としての人間を理解する。 2. 社会のしくみと機能について理解し、社会で生活することの意味を考えることができる。 3. 社会と人々の生活を社会学的・多面的に理解し、人間生活に関わる多様な課題を理解する。
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書 社会学 メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 社会とは何か、社会の成立 2. 人間の社会－人間と社会の関係、社会と国家 3. 家族とは何か 4. 家族の形成、家族の機能と構造 5. 現代家族の諸問題 家族の機能とその変化、家族構成員の果たす役割と家族の関係 6. 生活者とは何か 7. 人間にとっての生活の意味－生活の構成要素、生活経営の意義と方法 8. 生活と文化・価値 9. 生活と倫理 10. 生活の経済と生活設計 11. 生活における職業・趣味 12. 生活と安全行動 13. 家族生活と少子・高齢社会 14. 地域と生活 15. 社会問題、生活問題	講義・演習

評価方法	筆記試験 100% レポート持ち込み可
履修上の留意点	

科目コード№10

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 法と人権	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	末廣　敏昭

学習目標	1.　法の意味と働きを理解する。 2.　現代社会における人権に関する問題を知り、人権の意味を考えることができる。 3.　現代社会における法と医療の問題を理解する。 4.　法的思考、基本的姿勢(問題発見とその論理的解決、解決策の提示と説得)を身につける。
テキスト・ 参考文献	1.　看護学生のための法学　日本看護学校協議会共済会
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 法の基礎知識 　社会規範、法の意義と種類、法と道徳 2. 日常生活に関る法律 　強引な販売方法、不当な契約条件に関する規制、離婚問題・婚約破棄等 3. 人権やプライバシーの保護を目的とする法律 　ストーカー規制法、DV 法、児童虐待防止法、個人情報保護法など 4. 患者と人権 1）看護と法 2）法と倫理 3）憲法　4）基本的人権 5）医療と基本的人権　6）医療における自己決定権 7）プライバシーの権利 5. 個人情報保護法 1）個人情報保護法とは 2）個人情報保護法と厚生労働省ガイドライン概要 3）実習記録と個人情報 6. 人間の尊厳 1）脳死　2）生体移植 3）死ぬ権利(尊厳死・安楽死) 4）リヴィング・ウィル 5）生殖補助医療　6）クローン技術 7）医療分野における個人情報保護 8）看護の倫理 7. 人権の成立と保障 1）権利と義務　2）個人の尊厳 3）基本的人権の保障　4）人権の保障と自由・平等 5）表現の自由と知る権利	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コードNo.11

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 スポーツと健康	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	渡邉 陵由

学習目標	1. 心身の健全な発達の促進、運動やスポーツに内在する楽しみや技能、体力の維持・向上のための運動処方などを総合的・実践的に理解する。 2. どのような運動療法、スポーツが効果的か、実技を通して基本的知識を理解する。	
テキスト・参考文献	1. 健康・スポーツ科学入門 改訂版 出村 慎一他著 大修館書店	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 運動の必要性 1） 運動と健康との関係 2） 体力とは 3） 運動不足における身体機能への影響 2. 運動と循環器 1） 運動と心拍数 2） 運動と心臓の働き 3） 運動と呼吸 3. 運動と消化・吸収 1） 運動時の消化管の機能 2） 運動と消化器 4. 運動と栄養代謝 1） 運動種目とエネルギー代謝 2） 運動と脂肪・糖分・タンパク質 5. 身体運動と休養 1） 休養の必要性 2） 効果的な休養とり方 6. 運動処方 1） 運動処方 2） 運動時の安全管理 3） 健康のための運動 7. ヘルスエクササイズ	講義 実技
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の留意点	実技も行うため、着替え・運動靴を用意すること。	

科目コードNo.12

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 経済学	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	堤　静子

学習目標	1.　高齢社会が抱える諸問題(雇用、年金・医療、福祉等)について、経済学の視点から理解する。
テキスト・ 参考文献	講義ごとにレジュメを配布する。 参考図書等については講義内で随時紹介する。
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 高齢社会とは　高齢社会が経済に与える影響 2. 雇用の経済学 3. 年金の経済学 4. 医療の経済学 5. 福祉の経済学 6. 世界の高齢者福祉の現状 7. 我が国の今後の課題	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コードNo.13

授業科目		履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 外国語Ⅰ	（医療英語）	1年次・前期	1単位 30H（15コマ）	富岡　義勝

学習目標	1.　外国人の患者とのコミュニケーションが円滑にできるような英語力を身につける。 DVD やCDの活用により、病院等で看護師として活動する各場面で必要な英単語、英語表現を学習する。英語で聞ける、話せる看護英語の習得を目指す。	
テキスト・ 参考文献	1.　Talking with Your Patients in English アニメで学ぶ看護英語　成美堂	
事前・ 事後学習	各課の Expressions to Remember を予習し、オンラインのStrcamLine 再生などで復習に努めること	
講義内容・ 方法	講義内容	講義方法
	1.　イントロダクション 2.　Chapter1　院内施設・病室内備品 3.　Chapter6　診療科目 4.　Chapter2　バイタルサイン測定 5.　Chapter3　痛みのアセスメント（1） 6.　Chapter3　痛みのアセスメント（2） 7.　Chapter4　症状（1） 8.　Chapter4　症状（2） 9.　Chapter9　与薬 10. Chapter10　排泄 11. Chapter11　慢性疾患 12. Chapter12　急性期・手術室 13. Chapter13　妊婦健診 14. Chapter14　医学英文読解 15. 全体のまとめ	講義 毎回実践
評価方法	筆記試験　100％	
履修上の 留意点	英和辞書を持参すること。電子辞書可。	

科目コードNo.14

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
基礎分野 外国語Ⅱ（看護英会話）	1年次・後期	1単位 15H(7コマ)	富岡　義勝

学習目標	1.　看護英語(外国語Ⅰ)で習得した知識を基に、医療の現場で活用できる英語力を身につける。
テキスト・参考文献	1.　看護英語ワークブック　金芳堂
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。 各課の「Core Terms」と「Core phrases」を事前に目を通しておくこと。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. イントロダクション Lesson2　Patient Interview　問診 2. Lesson3　Body Temperature and Pulse　体温・脈拍測定 Lesson4　Blood pressure　血圧測定 3. Lesson5　Blood and Urine Sampling 採血・採尿 4.Lesson6　X-ray／Diagnosis レントゲン・診断 Lesson7　Injection　注射 5.Lesson8　Concerning the Operation　手術説明 Lesson9　After the operation　術後 6. Lesson11　Prescription　服薬指導 7. Lesson14　External Injury　外傷 全体のまとめ	講義 毎回実践

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	英和辞書を持参すること。電子辞書可。

専 門 基 礎 分 野

専門基礎分野

<講義概要>

看護師には、人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察、臨床判断が求められる。また、人々が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用するセルフケア能力を高められるよう、地域における保健医療福祉の関係機関と連携・調整する能力も必要である。

専門基礎分野は、体のしくみおよび体の異常を理解する「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」、人々の健康的な生活を支え少子高齢化・地域包括ケアに対応するための「健康支援と社会保障制度」から構成されている。臨床事例に関連づけて理解を深め、実践に活かすことができるよう 1 年次から 3 年次までで編成されている。講義と実習を分断せず看護学の学習も共に進め、思考力を高める。

地域完結型医療への転換、地域包括ケアシステムの推進に伴い、看護師の活動の場は病院から地域まで多様な場に広がり、健康の保持、病態の回復への支援、生活の調整などその役割は多岐にわたる。専門基礎分野の学びを通し、多職種間の相互理解と協働できる知識と能力を身につける。

〇人体の構造と機能

人体の構造と機能として人間の体を理解することは、構造や機能が障害されたときに生じる変化、病態の理解、臨床判断に必須であり、看護学の土台となる。疾病の成り立ちと回復の促進において、正常な人体の構造と機能を知ることが、疾患による変化や加齢による変化の理解につながる。

科目名	ねらい
解剖生理学 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	看護の対象の身体的観察や援助、治療の理解につなげるため、人体を構成している細胞、組織、器官、器官系の名称、構造とはたらきを理解し、臨床で活用できる解剖生理学の知識を身に付ける。
代謝栄養学	健康の維持・増進・回復に向けた看護実践につなげるため、栄養素の役割、代謝の仕組みを理解し、対象の食生活や栄養状態のアセスメントができるための知識を身に付ける。また、健康障害時の治療において適切な看護援助を行うため、食事療法について理解を深め、栄養食事指導の実践につなげる。

〇疾病の成り立ちと回復の促進

わが国の医学・医療は、超高齢社会における複数疾患の合併、慢性疾患の長期化、感染症、医療の高度化など非常に複雑化、多様化した課題を抱えている。疾病による変化、治療による効果・影響などの科学の知は、分析的、論理的思考、臨床判断に必須である。

人体の構造と機能が障害されたとき、どのような変化が生じるのか、治療による影響も含め、症状・治療・検査について理解し、チーム医療における専門性を高める姿勢を育む。

科目名	ねらい
病理学総論	系統別の様々な疾患の理解のため、先天異常、炎症、腫瘍、循環・代謝障害についての知識を学び、病態を生じさせる主な病因とその機序について知識を身に付ける。
臨床微生物学	看護における安全と感染予防のため、感染症を引き起こす細菌やウイルスなどの微生物の種類・特徴について理解する。さらに感染の成り立ちや人が感染から体を守るメカニズム、感染源と感染経路、感染症の検査、治療、対策について理解し、感染予防行動を身に付ける。
病態論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・ Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ	疾病をもつ人々の個別的な看護を提供するために、器官系統別の疾病の成り立ち、診断・検査・治療について理解し、回復を促進する治療と看護の根拠となる知識を身に付ける。
臨床薬理学	薬物治療に看護として安全・主体的にかかわるため、薬剤が生体に作用する仕組み、薬剤の種類、作用、使用方法、副作用について理解し、治療効果を発揮するための知識を身に付ける。
治療法概説	様々な治療に看護として安全・主体的にかかわるため、主な治療法である運動療法、放射線療法、内視鏡治療、手術療法、リハビリテーション療法の概要について理解し、各治療の特性が患者に与える影響についての知識を身に付ける。

〇健康支援と社会保障制度

超高齢社会、医療・療養の場の多様化に伴い、予防・医療・介護における人的および物的なサービス提供の課題、現代医療が抱える課題への対応が求められている。人間を生活者としてとらえ、人間の健康生活を支える保健医療福祉に関する知識をもとに、関係する職種の役割を理解して他職種との連携・協働することが重要である。

疾病構造・人口動態、自立支援と自己決定支援、倫理的課題への対応、保健・医療・福祉の連携、国民の健康を守り責務を正しく遂行するための法令について学び、チーム医療における看護師の役割の自覚につなげる。

科目名	ねらい
現代医療論	進歩し続ける現代の医療の様相を理解するために、医学・医療の本質、チーム医療、医療提供体制、現代医療の諸問題について理解し、これからの医療を担う有為な人材となるための認識を深める。
看護関係法規	看護者として責務を果たすために、医療および看護に関連する主な法律の概要を理解し、適切な医療を提供できるための知識を身に付ける。また、チーム医療を担う他職種の機能・役割についての基本的な法律を理解し、協働するための知識を身に付ける。
公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ	公衆衛生学とは人々の健康を維持・増進し、さまざまな疾病を予防するために必要な基礎知識を学ぶ学問であり、医療活動の基盤となる。看護師として人々の生活や健康を守るため、疾病の疫学、保健統計、環

	境や食に関した健康課題、制度や施策について理解し、学校、地域、職場などの集団に対して行われる予防的保健活動や健康教育の必要性を認識する。
社会福祉学Ⅰ・Ⅱ	人々の健康や暮らしを支え、生活の営みをよりよい状態に保つため、人々が抱える生活問題への対応と自立支援の方法を理解する。また、社会保障・社会福祉の概念、社会保険制度を理解し、生活困難な人々が自立した生活ができるよう支援するための社会資源活用の知識を身に付ける。

科目コード№15

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ　細胞、組織、骨格・筋系	1年次・前期	1単位 30H(15コマ)	中野　真人

学習目標	1.　人体の基本構造と人体の基本単位である細胞・組織について理解する。 2.　組織の組み合わせでできる器官の概略を理解する。 3.　骨、関節、筋肉の基本的な構造を理解する。 4.　骨、関節、筋肉の連動による運動のメカニズムを理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　人体の構造と機能①　解剖生理学　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 人体の体区と区分 ①　全身の名称 ②　方向と基準面 ③　四肢の区分と体幹 ④　体内の腔 2. 人体の基本単位－細胞、組織、器官 1）人体の成り立ち ①　人体の特徴　②　人体の形成 2）細胞 ①　細胞の構造　②遺　伝と遺伝情報　③　細胞の代謝と機能 3）組織 ①　上皮組織　②　支持組織　③　筋組織　④　神経組織 4）器官 ①　層構造の器官　②　実質性の器官　③　体腔と器官 5）器官系概略 ①　循環器系　②　呼吸器系　③　腎・泌尿器系　④　消化器 ⑤　運動器系　⑥　感覚器系　⑦　神経系　⑧　内分泌系 ⑨　生殖器系 3. 骨格・筋系 1）骨 2）骨の連結 3）骨格筋 4）各部の骨格と筋の構造と機能 ①　骨と筋の主な運動　②　体幹の骨と筋　③　上肢の骨と筋 ④　下肢の骨と筋　⑤　頭部・頸部の骨と筋 5）神経筋接合部における伝達と筋収縮 6）運動神経と感覚神経	講義

評価方法	講義内小テスト　10% 筆記試験　90%
履修上の留意点	

科目コード№16

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 解剖生理学Ⅱ　体液・血液、循環器系、免疫系	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	木村　眞吾 鈴木　喜郎

学習目標	1.　体液および血液成分の役割・調整機能を理解する。 2.　心臓、血管、リンパ管およびリンパ性器官の基本構造と機能を理解する。 3.　免疫系のしくみを理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　人体の構造と機能①　解剖生理学　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 体液と血液 1）体液 ① 体液の区分と役割　② 体液の調節　③ 酸塩基平衡の調節 ④ 体液の恒常性維持機構　⑤ 体液平衡の異常 2）血液 ① 血液の細胞成分と造血　② 血液の機能　③ 止血と血液凝固 ④ 血液型と輸血 2. 循環器系 1）循環器の構造と機能 ① 心臓　② 血管 2）循環系 ① 肺循環　② 体循環　③ 特殊領域の循環 3）リンパ系 ① リンパ系の構成　② リンパ管の構造と機能　③ リンパ液 ④ リンパ節　⑤ 扁桃　⑥ 脾臓　⑦ 胸腺 3. 免疫系 1）非特異的生体防御機構：自然免疫機構 ① 外来性異物からの生体防御機構 ② 上皮のバリア機構 ③ 食細胞と自然免疫 2）特異的生体防御機構：獲得性免疫機構 ① 獲得免疫に重要な物質、細胞、器官 ② 体液性免疫と細胞性免疫 ③ アレルギー反応	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№17

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 解剖生理学Ⅲ 呼吸器系、消化・吸収・代謝系、腎・泌尿器系	1年次・前期	1単位 30H(15コマ)	鈴木　喜郎 鈴木　亨

学習目標	1.　呼吸器系の基本構造と機能を理解する。 2.　消化・吸収・代謝系の構造と機能を理解する。 3.　腎、尿管、膀胱および尿路の基本構造と排尿の機能について理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　人体の構造と機能①　解剖生理学　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 呼吸器系 1）呼吸器系の構造 ①　上気道　②　喉頭　③　気管と気管支　④　肺 ⑤　胸膜　⑥　縦郭　⑦呼吸筋 2）呼吸器の機能 ①　肺における換気　②　外呼吸　③　ガスの運搬　④　内呼吸 3）呼吸の調節 ①　化学受容器と呼吸器系の受容器　②　呼吸中枢 ③　呼吸の調節　④　正常呼吸と異常呼吸 2. 消化・吸収・代謝系 1）消化管の基本構造と機能 ①　基本構造　②　運動　③　ホルモン 2）歯・口腔・咽頭の構造と機能 ①　歯・口腔　②　咽頭 3）消化管の構造と機能 ①　食道　②　胃　③　小腸　④　大腸 4）肝臓、胆嚢、膵臓　消化 ①　肝臓・胆嚢　②　膵臓 5）栄養素の消化と吸収・代謝　吸収 ①　消化の基本原理　②　炭水化物　③　たんぱく質 ④　脂質　⑤　消化吸収に伴う水の移動　⑥　排便 6）腹膜 ①　腸管膜 3. 腎・泌尿器系 1）腎・泌尿器の構造と機能 ①　腎臓の構造　②　腎臓の機能 ③　その他の機能：ホルモン、酸塩基平衡、尿素の排泄、電解質調節 2）尿路 ①　尿管　②　膀胱　③　尿道　④　排尿	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コードNo.18

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 解剖生理学Ⅳ 内分泌系、感覚器系、神経系、生殖器系	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	木村　眞吾 鈴木　享

学習目標	1.　ホルモンの定義と作用するしくみ、各器官から分泌されるホルモンの名称とその作用について理解する。 2.　感覚器系受容器のしくみと働きを理解する。 3.　身体の中の情報伝達を担う中枢神経系、末梢神経系のしくみについて理解する。 4.　男性生殖器と女性生殖器の基本構造と生殖のしくみを理解する。 5.　解剖見学をとおし、身体の全体構造を立体的に理解する。	
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　人体の構造と機能①　解剖生理学　メヂカルフレンド社	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 内分泌系 1）ホルモンの定義と種類 2）内分泌器官の構造とホルモンの機能 ① 視床下部　② 下垂体　③ 甲状腺　④ 副甲状腺　⑤ 膵臓 ⑥ 副腎(副腎皮質・副腎髄質)　⑦ 性腺ホルモン　⑧ その他 2. 感覚器系 1）感覚の特徴 ① 皮膚の構造と感覚　② 深部感覚　③ 痛み 2）内臓感覚 ① 内臓感覚の受容器と機能　② 関連痛 3）視覚器 4）聴覚・平衡覚器 5）味覚器・臭覚器 6）体温の調節 7）からだのリズム 3. 神経系 1）神経系の分類　① 構造に基づく分類　② 機能に基づく分類 2）神経組織の構造と機能 3）中枢神経 4）末梢神経系 4. 生殖器系 1）男性　① 男性生殖器の構造　② 男性の生殖機能 2）女性　① 卵巣　② 管腔系の構造　③ 女性外生殖器の構造 ④ 性周期　⑤ 妊娠と出産　⑥ 乳腺 5. 成長と老化 6. 解剖演習(2コマ) ※岩手医科大学解剖学教室における全身の解剖人体標本を見学する	講義 解剖演習
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の留意点		

科目コード№19

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 代謝栄養学	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	井元 紀子 谷地 慶子

学習目標	1. 生命活動とエネルギーとの関連を理解する。 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と機能およびその代謝について理解する。 3. ライフサイクルにおける栄養の重要性や食事と健康、食事と疾病の関係について理解する。 4. 治療食の種類を学び、看護実践における栄養学的な知識を習得する。	
テキスト・ 参考文献	1. 新体系看護学全書 人体の構造と機能② 栄養生化学 メヂカルフレンド社 ＜参考文献＞ 1. 系統看護学講座別巻 5『栄養食事療法』医学書院 2. 五訂増補 食品成分表 女子栄養大学出版部	
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・ 方法	講義内容	講義方法
	1. 栄養と生化学 栄養と栄養学、看護と生化学、消化と吸収、同化作用、異化作用 2. 栄養素の役割 1) 栄養素の種類 2) 栄養素の役割 3. 糖質代謝 4. 脂質代謝 5. たんぱく質代謝 6. 核酸代謝 7. エネルギー代謝および食事摂取基準 8. ライフサイクルと栄養	講義
	9. 栄養状態の判定（演習：栄養アセスメント） 1) 身体計測（BMI、皮下脂肪厚） 2) 食事調査 3) 臨床検査 10. 臨床栄養 11. 治療食 12. 食事療法の実際（演習：カロリー計算, 食事指導の実際） 1) 糖尿病の食事療法 2) 消化器疾患の食事療養 3) 内分泌疾患の食事療法 4) 循環器疾患の食事療法 5) 腎臓疾患の食事療法 6) その他の各種疾患の食事療法	演習
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の 留意点		

科目コード№20

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病理学総論	1年次・後期	1単位 15H(7コマ)	虫明　元

学習目標	1.　疾病の原因や発生病理形態と機能および代謝変化の原理を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　シンプル病理学　南江堂
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 病理学とは 2. 先天異常 1）奇形と遺伝性疾患 2）奇形の種類 3）遺伝の関与しない奇形 4）遺伝の関与する奇形 5）遺伝異常による疾患 6）遺伝性疾患の診断と治療 3. 代謝障害 1）萎縮と肥大 2）変性 3）壊死 4. 循環障害 1）循環器系の概要 2）循環血液量の障害 3）閉塞性の循環障害 4）側副循環 5）リンパの循環障害 5. 炎症と免疫 1）炎症の原因と免疫反応 2）炎症の各型 3）免疫と疾患 4）炎症の治療 6. 腫瘍 1）腫瘍の定義と分類 2）悪性腫瘍の転移と進行度 3）腫瘍の発生病理 4）加齢と悪性腫瘍の発生 5）腫瘍の診断と治療 7. 老化と死	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コード№21

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 臨床微生物学	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	一ノ渡　学

学習目標	1.　病因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について理解する。 2.　感染や発症に対する生体防御機構について理解する。 3.　感染予防と対処法について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　わかる！身につく！病原体・感染・免疫　南山堂
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 微生物・医動物とは 1）身近な微生物 2）臨床微生物・医動物 2. 代表的な感染症と臨床微生物(1) 1）呼吸器感染症 2）消化器系感染症・食中毒(食中毒を予防するための事例検討：演習) 3）肝炎 4）尿路感染症 5）性感染症 6）皮膚・粘膜の感染症 7）脳・神経系感染症 3. 代表的な感染症と臨床微生物(2) 1）人畜共通感染症 2）寄生虫感染症 3）小児の感染症 4）母子感染 5）高齢者の感染症 6）日和見感染症 7）移植患者と感染症 8）術後感染症・創傷感染症 9）血管カテーテル関連感染症 10)針刺しと感染症 11)薬剤耐性菌 4. 臨床微生物の感染と宿主の関係 1）感染と発病　2）感染防御機構の基礎 5. 感染・発症予防 1）ワクチン接種と血清療法　2）滅菌と消毒 6. 感染症の検査・治療 1）感染症検査と臨床微生物　2）感染症の治療	講義 演習

評価方法	筆記試験　90%　口頭試問　10%
履修上の 留意点	

科目コード№22

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅰ　運動器系疾患	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	久木田　裕史

学習目標	1.　主な運動器系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　運動器　成人看護学⑩　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1.基礎知識　診断と検査	講義
1）症状のとらえ方	
2）診断の方法	
3）検査の方法	
2.主な疾病と診療	
1）変形性関節症	
変形性膝関節症・変形性股関節症	
（関節可動域訓練：演習）	演習
2）関節リウマチ	
3）脊椎・脊髄疾患	
椎間板ヘルニア（腰椎・頚椎）、脊髄損傷、腰椎圧迫骨折、	
脊柱側弯症・脊柱管狭窄症	
4）末梢神経の損傷と障害	
手根管症候群、腓骨神経麻痺	
5）骨粗しょう症	
6）骨折	
上腕骨果（顆）上骨折、膝蓋骨骨折、鎖骨骨折、大腿骨頸部骨折、	
大腿骨幹部骨折、橈骨下端骨折	
（効果的な固定法、牽引法、筋力増強訓練：演習）	演習
7）スポーツ傷害	
アキレス腱断裂	演習
（免荷・歩行補助具・自助具の適応：演習）	
8）骨・軟部腫瘍	
9）その他	
肩関節周囲炎、肩関節脱臼	

評価方法	筆記試験　100％
履修上の留意点	

科目コード№23

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅱ 呼吸器系、血液･造血器系、免疫･アレルギー疾患	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	工藤　温子 安藤　敏典 沼岡　英晴

学習目標	1.　主な呼吸器系疾患の発生機序、病態、検査・治療についての概要を理解する。 2.　主な血液・造血器系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 3.　主な免疫・アレルギー疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　呼吸器　成人看護学②　医学書院 2.　系統看護学講座　専門Ⅱ　血液・造血器　成人看護学④　医学書院 3.　系統看護学講座　専門Ⅱ　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学⑪　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	[呼吸器系疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）感染症-かぜ症候群、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核症 2）アレルギー疾患-気管支喘息、気管支拡張症 3）閉塞性疾患-びまん性汎細気管支炎、COPD 4）拘束性肺疾患-間質性肺炎、塵肺症 5）肺循環障害-肺血栓塞栓症、ARDS、肺水腫 6）換気異常-過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、呼吸不全 7）腫瘍-肺がん(原発性・転移性)、縦隔腫瘍 8）胸腔疾患-胸膜炎・胸水、気胸(自然・外傷) 3. 共通する患者指導 1）呼吸リハビリテーション(リハビリテーションの実際:演習) 2）禁煙指導 [血液・造血器系疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾患と診療 1）赤血球系疾患-貧血(溶血性・巨赤芽球性・再生不良性など) 2）白血球系疾患-白血病、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫 3）出血性疾患-血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群 [免疫・アレルギー疾患] 1. 基礎的知識 1）免疫防御　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）アレルギー疾患-アナフィラキシー、薬物アレルギー、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、職業アレルギー、花粉症 2）膠原病-関節リウマチ、全身性硬化症(強皮症)、多発性筋炎・皮膚筋炎、SLE、シェーグレン症候群、ベーチェット病、レイノー病 3）免疫不全症-HIV・AIDS	講義 演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コードNo.24

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅲ　循環器系疾患	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	小倉　和也 八木　葉子

学習目標	1.　主な循環器系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。	
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　循環器　成人看護学③　医学書院	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 基礎的知識 1）構造と機能 2）症状と病態生理 3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）先天性心疾患 心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症 2）後天性心疾患 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、 心膜疾患（心膜炎・心タンポナーデ）、心筋症（拡張型・肥大型）、 肺性心、心不全、感染性心内膜炎、弁膜症、ショック （心電図の測定と所見：演習） 3）血圧異常 本態性高血圧、二次的高血圧、低血圧症 4）不整脈疾患 心房細動・心房粗動、上室性頻拍、心室頻拍、心室細動、 房室ブロック、洞不全症候群 （不整脈の種類と判断の仕方：演習） 5）血管の疾患 動脈硬化症、大動脈疾患（大動脈瘤・大動脈解離）、静脈疾患	講義 演習 演習
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の留意点		

科目コード№25

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅳ　消化器系疾患	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	日沢　裕貴 新井田　修久 福田　春彦

学習目標	1.　主な消化器疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 2.　主な肝臓・胆道・膵臓疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 3.　主な乳腺疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　消化器　成人看護学⑤　医学書院 2.　系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	[消化器系疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能 2）症状と病態生理 3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）食道の疾病-食道癌、食道アカラシア （演習：咀嚼・嚥下訓練） 2）胃・十二指腸疾患-胃・十二指腸潰瘍、胃癌 3）腸（小腸、大腸）の疾病-腸閉塞（イレウス）、ダンピング症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸ポリープ、大腸癌、直腸脱、痔核、肛門周囲膿瘍 [肝臓・胆道・膵臓疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能 2）症状と病態生理 3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）肝疾患-肝炎（急性・慢性）、肝硬変（食道静脈瘤）、薬物性肝障害、肝腫瘍、肝不全 2）胆道疾患-胆石症、胆嚢ポリープ、胆道腫瘍 3）膵疾患-膵炎（急性・慢性）、膵腫瘍 [乳腺疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能 2）症状と病態生理 3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 乳がん、乳腺炎、乳腺症	講義 演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№26

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅴ　代謝・内分泌系疾患	1年次・後期	1単位 15H(7コマ)	佐藤　都留雄

学習目標	1.　主な代謝・内分泌系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学⑥　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 基礎的知識 1）構造と機能 2）症状と病態生理 3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 [内分泌疾患] 1）視床下部の異常-視床下部腫瘍(尿崩症)、下垂体機能低下症 2）下垂体の異常-下垂体腫瘍(先端巨人症、プロラクチノーマ、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群) 3）甲状腺疾患-甲状腺機能亢進症、甲状腺クリーゼ、甲状腺機能低下症、甲状腺腫瘍 4）副甲状腺疾患-副甲状腺機能低下症 5）副腎疾患-クッシング症候群、原発性アルドステロン症、副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫・神経芽細胞腫、副腎不全 6）性腺疾患-思春期早発症、性腺機能低下症 [代謝疾患] 1）糖質代謝異常-糖尿病、糖原病 2）脂質代謝異常-高脂血症、低脂血症 3）たんぱく・アミノ酸異常-血漿たんぱく異常、アミロイドーシス 4）水・電解質の代謝異常-ナトリウム代謝異常、カリウム代謝異常 5）栄養異常-肥満症、メタボリック症候群、低栄養、ビタミン欠乏症 6）その他の代謝疾患　痛風	講義
3. 検査データのアセスメント(演習)	演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№27

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅵ　腎・泌尿器系、生殖器系疾患	2年次・前期	1単位 30H(15コマ)	遠藤　守人 荻生　和徳 武者　晃永

学習目標	1.　主な腎疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 2.　主な泌尿器系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 3.　主な生殖器系の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学⑧　医学書院 2.　系統看護学講座　専門Ⅱ　女性生殖器　成人看護学⑨　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	[腎疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）腎疾患の治療総論 2）腎疾患の治療各論 腎不全(急性・慢性) (透析療法の採用基準と選択、透析のメカニズム:演習) ネフローゼ症候群　原発性(一次性)糸球体腎炎 全身性疾患と腎(糖尿病性腎症、ループス腎炎、血管炎症候群、多発性骨髄腫、アミロイドーシス) 腎血管性疾患 [泌尿器・生殖器疾患] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と治療 1）泌尿器の疾患 尿路結石症、腎細胞がん、尿路上皮腫瘍:腎盂・尿管腫瘍、膀胱腫瘍　尿細管間質性腎炎、尿細管性アシドーシス、水腎症、尿路通過障害、尿失禁、神経因性膀胱 2）感染症(尿路感染症) 3）男性生殖器の疾患 前立腺肥大症、前立腺がん、精巣腫瘍、陰茎腫瘍、陰茎・陰嚢の先天性奇形、性機能障害(ED)、男性更年期障害、性分化異常 4）女性生殖器の疾患 更年期障害および自律神経失調症、女性性腺機能障害、炎症性疾患、器質性疾患、性器感染症、不妊症、性・生殖器系腫瘍	講義 演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コードNo.28

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅶ　脳・神経系疾患	1年次・後期	1単位 15H(7コマ)	切替　典宏

学習目標	1.　主な脳・神経系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　脳・神経　成人看護学⑦　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 基礎的知識	講義
1）構造と機能	
2）症状と病態生理	
3）診断と検査	
（髄液検査時の援助：演習）	演習
2. 主な疾病と診療	
1）脳血管障害	
脳血栓・塞栓症・一過性脳虚血発作	
脳出血、クモ膜下出血、脳血管性認知症、もやもや病	
外傷性頭蓋内血腫（急性・慢性）	
（空間失認の生活訓練、失語・構音障害の生活訓練：演習）	演習
2）神経系の腫瘍	
髄膜腫、神経鞘腫、グリオーマ（神経膠腫）、脳下垂体腺腫、髄芽腫	演習
（脳 CT 画像所見：演習）	
3）神経系の感染症	
髄膜炎、脳膿瘍、クロイツフェルト・ヤコブ病	
4）機能性疾患	
てんかん、頭痛	
5）神経変性疾患	
パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、	
筋萎縮性側索硬化症	
6）脱髄性疾患	
多発性硬化症	
7）脊髄・脊椎疾患	
脊髄空洞症、脊髄腫瘍	
8）末梢神経疾患	
ギラン・バレー症候群、多発神経炎	
9）筋疾患	
重症筋無力症、多発筋炎・皮膚筋炎、筋ジストロフィー	

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№29

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 病態論Ⅷ　感覚器系疾患	2年次・後期	1単位 15H(7コマ)	鹿内　祐樹 去石　巧 橋本　功

学習目標	1.　主な眼科系疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 2.　主要な耳の疾患、鼻の疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 3.　口腔・咽頭・喉頭部の主要な疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。 4.　主な皮膚疾患の発生機序、病態、検査・治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　専門Ⅱ　眼　成人看護学⑬　医学書院 2.　系統看護学講座　専門Ⅱ　耳鼻咽喉　成人看護学⑭　医学書院 3.　系統看護学講座　専門Ⅱ　皮膚　成人看護学⑫　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	[感覚器系疾患－眼科－] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）屈折、調節の異常 2）結膜の病気-流行性角結膜炎 3）角膜の病気-角膜潰瘍、角膜ヘルペス 4）水晶体の病気-白内障、緑内障 5）網膜の病気-網膜剥離、糖尿病性網膜症、高血圧性網膜症 6）ぶどう膜の病気-ぶどう膜炎 7）視神経と眼筋の病気 8）眼瞼、眼窩、涙器の疾患-麦粒種、眼瞼下垂 9）眼の外傷 [感覚器系疾患－耳鼻咽喉科－] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 1）耳疾患-中耳炎(急性・慢性)、突発性難聴、メニエール病、良性発作性頭位めまい症 (平衡感覚検査法と事故防止:演習) 2）鼻疾患-鼻出血、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎(急性・慢性)、上顎癌 3）口腔・咽頭疾患-舌・口腔底がん、扁桃炎(急性・慢性)、咽頭癌 4）喉頭疾患-喉頭癌、声帯ポリープ、声帯麻痺 5）頸部疾患-唾液腺腫瘍 [感覚器系疾患－皮膚科－] 1. 基礎的知識 1）構造と機能　2）症状と病態生理　3）診断と検査 2. 主な疾病と診療 アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性湿疹、じんま疹、皮膚掻痒症、薬疹、膠原病(エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群)、掌蹠膿疱症、痤瘡、皮膚感染症(白癬、疥癬、単純ヘルペス、 水痘・帯状疱疹)、 腫瘍、熱傷・褥瘡	講義 演習
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の留意点		

科目コード№30

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 臨床薬理学	1年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	齊藤　弘子

学習目標	1.　医薬品の生体に及ぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得する。 2.　医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを理解する。 3.　臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みを理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　新クイックマスター　薬理学　サイオ出版
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	1. 医薬品総論 1）医薬品　2）医薬品の作用原理とその影響　3）医薬品の適正利用 （医薬品添付文書の読み方、処方から投与までの流れ、処方箋の見方：演習） 2. 主な生活習慣病に使用する薬 1）生活習慣病　2）高血圧　3）狭心症　4）心筋梗塞 5）高脂血症　6）糖尿病 3. がん・痛みに使用する薬 1）がんに使用する薬　2）がん性疼痛に使用する薬 3）その他の痛みに使用する薬 4. 感染症に使用する薬 1）細菌感染症　2）ウイルス感染症　3）真菌感染症 4）寄生虫感染症　5）消毒薬（濃度計算：演習）　6）予防接種薬 5. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 1）中枢神経系のはたらきと薬 2）抗てんかん薬 3）パーキンソン病治療薬 4）向精神薬 5）急性期脳血管障害の薬物療法 6. 救命救急時に使用する薬 1）ショックに対して使用する薬 2）医薬品に関連した中毒の治療に使用する薬 3）救急カートに必要な薬 4）麻酔時に使用する薬 輸液（濃度・量、滴下数の計算など：演習） 7. アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 1）気管支喘息と薬物療法 2）呼吸器疾患に使用する薬（咳嗽、喀痰に対する薬含む） 3）関節リウマチと薬物療法 4）全身性エリテマトーデスと薬物療法 8. 消化器系疾患に使用する薬 9. その他の症状に使用する薬	講義 演習 演習 演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コードNo.31

授業科目		履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 治療法概説		1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	虫明　元 泉田康志・村上三四郎
学習目標	1.　運動療法、放射線療法、内視鏡的治療、リハビリテーションの基礎的知識を理解する。 2.　手術療法ならびに麻酔法による生体への影響を理解する。 3.　代表的な手術療法の適応と術前・術後管理、術後合併症の予防法と経過・予後、手術に伴って発生する合併症の治療について理解する。 4.　チーム医療の目的、チーム医療における各職種の役割とスキルを理解する。			
テキスト・ 参考文献	1.　新体系看護学全書　別巻　治療法概説　メヂカルフレンド社			
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。			
講義内容・ 方法	講義内容			講義方法
	1. 運動療法 1）運動療法の目的・種類・特徴 2）運動療法の対象となる疾患 3）運動処方の原則・副作用 2. 放射線療法 1）放射線療法の目的・種類・特徴 2）放射線療法の適応と進め方 3）放射線障害と放射線防護 3. 内視鏡的治療 1）内視鏡的治療の目的 2）内視鏡的治療の種類・適応 止血術、食道・胃静脈瘤治療、消化管狭窄に対する治療 内視鏡的粘膜切除術、経皮内視鏡的胃瘻増設術 内視鏡的胆道ドレナージ、乳頭切開術、内視鏡外科手術 4. リハビリテーション療法 1）リハビリテーションの概要と適応 2）リハビリテーションの種類と特徴 3）リハビリテーションの実際（演習） 5. 手術療法 1）手術療法の目的と意義 2）外科手術手技・処置の基本 3）麻酔の種類、気管内挿管 4）手術室の管理、術前・術後管理と術後合併症の管理 外科的侵襲と生体の反応、炎症と外科的感染症、生体の損傷 腫瘍の外科的治療、臓器移植 6. 術後合併症の予防法（演習） 7. チーム医療 1）チームの目的 2）チーム医療における各職種の役割 3）チーム医療の構築に求められるスキル			講義 演習（4-3） 演習（6）
評価方法	筆記試験　100%			
履修上の 留意点				

科目コード№32

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 現代医療論	3年次・前期	1単位 15H(7コマ)	虫明　元

学習目標	1.　医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題をかかえているのか理解する。 2.　現在の医療の様相を理解し、今後の医療における看護の責務を考察する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　現代医療論 メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 医学・医療のあゆみ 1）経験的医療から医学医療の近代化 2）近代医学の発展 3）今後の医学・医療の方向 2. 医学と医療 1）医学と医療 2）現代医療の本質 3）医療の実践 3. わが国の医療提供体制 1）医療提供体制の現状と整備の経過 2）医療関係者の現況と養成の実態 3）医療保障の現状と課題	講義
	4. 現代医療における諸問題（事例検討） 1）医療の進歩と医の倫理 2）医療における患者の権利 3）病状（真実）の告知 4）脳死と臓器移植 5）死と生命保持、安楽死、死を共有する医療	演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コードNo.33

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 看護関係法規	2年次・後期	1単位 15H(7コマ)	末廣　敏昭

学習目標	1.　人々の健康を守るための医療機関と医療従事者の職務の機能・役割に関係する基本的な法律について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令　医学書院 ＜参考文献＞ 1.　看護六法
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 看護職に関する法 1）保健師助産師看護師法 2）看護師等の人材確保の促進に関する法律 2. 医療・社会福祉関連職に関する法律 1）医療法 2）医師法・歯科医師法 3）薬事法・薬剤師法 4）診療放射線技師法 5）理学療法士及び作業療法士、言語療法士法 6）栄養士法 7）臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律	講義
	3. サービスの供給体制 1）医療提供施設の機能（病院、診療所、介護老人保健施設等） 2）地域包括支援センター、助産所、訪問看護ステーション 3）救急医療、在宅医療 4）診療記録・情報公開 5）医療過誤（医療過誤の事例検討と判例：演習） 6）感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 4. 看護職と関係法規 1）労働基準法・労働条件の原則 2）育児休業・介護休業法 3）労働安全衛生法	演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コード№34

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 公衆衛生学Ⅰ	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	千葉　啓子

学習目標	1.　健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明できる。 2.　わが国の人口や保健衛生の動向に関わる統計を理解できる。 3.　健康指標の役割を理解し、それらから明らかにされるわが国の健康状況の実態について説明できる。 4.　わが国の主要疾患(生活習慣病・感染症等)と疾病予防対策について理解できる。 5.　環境要因と健康のかかわりについて理解できる。
テキスト・ 参考文献	1.　衛生・公衆衛生学　(アイ・ケイコーポレーション) 必要に応じてプリントも配布する ＜参考資料＞ 1.　国民衛生の動向(厚生統計協会)
事前・ 事後学習	予習:授業内容に相当する教科書の章部分に目を通し、重要点を把握する。 復習:教科書や配布資料、ノートを読み直し、授業の内容を整理する。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	第１回:公衆衛生概論 第２回:人口統計・保健統計からみたわが国の健康状況 第３回:健康状況の把握方法 第４～５回:わが国の主要疾患(生活習慣病、感染症など)と予防対策 第６～7回:環境要因(食品、暮らし・地域・地球規模)と健康	全回対面授業

評価方法	出席を重視し、定期試験や授業時に行う小テストにより総合的に評価する。
履修上の 留意点	公衆衛生学は１年次と３年次とに分けて履修する。１年次では主に国民全体の健康にかかわる事項について学び、３ 年次でライフステージごとに健康状況を学ぶ際の基礎知識となる。

科目コード№35

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 公衆衛生学Ⅱ	3年次・前期	1単位 15H(7コマ)	千葉　啓子

学習目標	1.　地域における保健衛生分野の現状と課題、今後の方向性について理解する。 2.　ライフステージごとの保健活動、とくに人的サービスについて理解する。
テキスト・参考文献	1.　衛生・公衆衛生学(アイ・ケイコーポレーション) 必要に応じてプリントも配布する ＜参考資料＞ 1.　国民衛生の動向(厚生統計協会)
事前・事後学習	予習:授業内容に相当する教科書の章部分に目を通し、重要点を把握する。 復習:教科書や配布資料、ノートを読み直し、授業の内容を整理する。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	第１回:わが国・世界の健康問題(SDGs を踏まえて) 第２回:地域保健活動(保健所と市町村保健センターの役割) 第３回:社会保障のしくみと役割 第４回:母子保健活動 第５回:学校保健活動 第６回:成人・高齢者保健活動 第７回:産業保健活動	全回対面授業

評価方法	出席を重視し、定期試験や授業時に行う小テストにより総合的に評価する。
履修上の留意点	１年次で履修した公衆衛生学Ⅰでは国民全体の健康と公衆衛生について学んだ。３年次の公衆衛生学Ⅱで履修するライフステージごとの健康の把握とを合わせて公衆衛生学の全容を知ることとなる。１年次で触れた教科書等の内容を読み返しておくとよい。

科目コード№36

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 社会福祉学Ⅰ	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	齊藤 浩

学習目標	1. 現代における社会福祉の概念とその歴史的変遷について理解する。 2. 福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係を理解する。	
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度３ 社会福祉 メヂカルフレンド社	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 生活と福祉 1） 福祉を学ぶ意義 2） 生活基盤 3） ライフスタイル 4） 人間の集団としての働き 2. 社会保障の概念・歴史・制度体系 1） 社会保障概念の形成 2） 日本の社会保障の歴史的発展 3） 社会保障の定義と制度の範囲・分類 4） 社会保障の目的と機能 5） 社会保障の方法と財政 3. わが国の社会保険制度 1） 社会保険の役割と制度の分類 2） 医療保険制度 3） 老人保健制度と公費負担医療制度 4） 保健医療制度 5） 医療提供体制 6） 国民医療費と医療制度改革の課題 7） 介護保険制度（介護保険活用までの流れシミュレーション：演習） 8） 年金保険制度 9） 労働保険制度 4. 社会福祉の歴史と援助技術 1）慈善事業から福祉国家まで 2）わが国の社会福祉の歴史 3）社会福祉援助技術	講義 演習
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の留意点		

科目コード№37

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門基礎分野 社会福祉学Ⅱ	2年次・後期	1単位 15H(7コマ)	齊藤 浩

学習目標	1. 保健・医療・福祉の連携を図るために、社会福祉の制度やしくみを理解する。 2. 社会的生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や、社会福祉の果たす役割を理解し、今後の方向性を考える。
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度３ 社会福祉 メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 社会福祉の諸制度と施策 1） 生活保護法と施策 （生活保護申請の流れシミュレーション：演習） 2） 児童福祉と施策 3） 身体障害児の福祉施策 4） 障害者の福祉施策 5） 知的障害者（児）の福祉施策 6） 精神障害者の福祉施策 7） 高齢者の福祉施策 2. 社会福祉行政のしくみ 1） 福祉行政の実施体制（国と地方） 2） 社会福祉実践組織と運営 3） 福祉の専門職と職種 3. 社会保障・社会福祉改革の動向 1） 少子高齢社会と社会保障改革 2） 福祉改革と社会福祉基礎構造改革	講義 演習

評価方法	筆記試験 100%
履修上の留意点	

専 門 分 野

専門分野　基礎看護学

〈授業概要〉

基礎看護学は、各専門領域の土台となる看護の概念や機能と役割、看護実践の基礎となる看護技術、および看護における問題解決の方法などを学ぶ分野である。

看護の対象は、あらゆる健康レベル、年齢、個人、集団を対象としており、その対象の理解には、看護の根幹となる共通の概念として、生活者としての人間、環境、健康、看護の理解が必要である。看護の実践においては、対象を理解した上で、専門的知識に基づき、安全・安楽、自立・個別性を目指した意図的で直接的な看護行為を実践する必要がある。特に専門基礎分野の知識を活用した高度な臨床判断の能力が求められる。また、基礎看護学においては、適切な倫理観を養うとともに、看護の質を向上させるための研究的態度が専門職業人である看護師には必要であり、そのための基礎的知識を学ぶ。

基礎看護学の授業は１年次を中心に行われ、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養い、3年間の学びを通しながら看護の概念や本質の理解を深め、発展させていく。

科目名	ねらい
基礎看護学概論	看護独自の機能を果たしていくため、看護の歴史的変遷から基本となる概念、看護の役割や機能、看護理論について理解し、看護する者として必要な姿勢・考え方を修得する。
看護過程	対象の抱えている看護問題を解決に向けるため、身体的・精神的・社会的側面から総合的にアセスメントし、計画を立案・実践・評価・修正していくプロセスを理解する。
ヘルスアセスメント	対象の健康問題を把握して適切な看護を提供するために、身体的・精神的・社会的側面の総合的なアセスメントと、フィジカルアセスメントの知識・技術を身につける。
コミュニケーション・安全管理	看護実践は人間同士の相互関係の中で実施されるため、看護におけるコミュニケーション意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための技法を身につける。看護は絶えず事故と感染の危険性と相対しているため、看護事故の構造と、防止のための対策、感染予防の基礎知識と感染源・感染経路への対策を理解する。
活動と休息、環境調整	健康の保持・増進・回復において活動と休息、環境は重要な影響を及ぼす。人間にとっての活動と運動、睡眠と休息、看護における安楽確保、環境調整の意義を理解し、状況に応じた援助方法を習得する。
食生活と排泄	生命を維持するための「食べる」「排泄する」行動を支援するために、人間にとっての食事および排泄の意義を理解し、食生活・栄養状態・排泄のアセスメント、状況に応じた援助方法を習得する。
清潔	個別性を踏まえた清潔・身だしなみの援助が行えるために、人間にとっての清潔の意義を理解し、清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助、

	身体各部の清潔の援助技術を習得する
検査と看護	安全で負担の少ない検査の看護を実践するために、検査の意義と看護師の役割を理解し、安全・安楽に検査を実施できるための知識・技術を身に付ける。
呼吸循環を整えるための看護	呼吸・循環を整えるために、呼吸・体温調整の生理学的メカニズムを理解し、治療・処置・援助、末梢循環促進・体温管理の援助技術を習得する。
治療・処置と看護	安全で負担の少ない治療の補助・処置を実践するために、安静療法、薬物療法、輸血療法、創傷処置、それぞれの目的・方法を理解し、援助技術を習得する。
臨床判断基礎	専門知識を活用して対象の状態に応じた適切な援助を実践するために、臨床判断・臨床推論の定義・プロセス、健康状態の経過、主な症状の看護を理解し、必要な看護を推測する思考を身に付ける。
看護倫理	医療・福祉の中で人間の尊厳・人格を護るために、看護における倫理の重要性と課題、倫理的意思決定を行うための基本的知識、枠組みを理解し、人権擁護と看護師の責務を追求する姿勢を身につける。
看護研究	看護ケアの質の向上、より質の高い看護実践を目指すために、研究方法の基礎知識、論文の分析的・批評的な評価の視点、看護の専門性や科学性を探求する方法を理解する。

科目コード№38

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 基礎看護学概論	1 年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	松浦　まり子

学習目標	1.　看護の歴史的変遷を踏まえながら、看護の概念、看護の役割を理解する。 2.　看護理論の概要を理解する。 3.　看護の対象である人間の特徴と生活者としての人間を理解する。 4.　健康の概念を広く捉えて理解する。 5.　看護の機能と役割を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座　基礎看護学①　看護学概論　医学書院 ＜サブテキスト＞ 1.　看護に生かす看護理論 19　サイオ出版 ＜参考文献＞ 1.　看護者の基本的責務～定義・概念/基本法/倫理～　日本看護協会出版会
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 看護の本質 1）看護の歴史的変遷 2）看護の定義 3）保健師助産師看護師法 2. 看護の対象 1）生活統合体としての人間 2）発達・変化するものとしての人間 3）人間のニーズと適応 4）環境の変化と対処機制 3. 健康と看護 1）健康の概念 2）QOL と健康 3）人々の健康状態と生活 4. 保健医療システムと看護 1）保健医療提供システム 2）保健医療の提供とチーム活動 3）主な看護活動展開の場と看護の機能 4）チームアプローチと看護 5. 看護の役割と機能 1）看護の機能と役割 2）看護をめぐる制度 3）看護職の継続教育とキャリア開発	講義　演習

評価方法	筆記試験　100% レポート提出状況・内容を加算・減点する。
履修上の 留意点	基礎看護学概論は、初めての専門科目で看護を学ぶ上での導入にあたります。看護につい様々な視点から探求し、深化させることができるよう学習に臨んでください。また、職業としての看護だけでなく、看護学という学問を学ぶという視点から、自ら取組む姿勢、常に考える態度を養ってください。

科目コード№39

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 共通基本技術Ⅰ　看護過程	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	久保　真美

学習目標	1.　看護過程の意義・目的を理解する。 2.　看護過程の各構成要素について理解する。 3.　紙上事例を通して看護過程を展開することができる。 4.　看護記録の方法について理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社 2.　ゴードンの機能的健康パターンに基づく　看護過程と看護診断　ヌーヴェルヒロカワ 3.　看護診断ハンドブック　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	1. 看護過程の概要 1）看護過程の意義・目的 2）看護過程とクリティカルシンキング・リフレクション 2. アセスメント 1）情報収集の段階 2）看護上の問題を明確化していく段階 3. 看護上の問題の特定（看護診断） 1）特定された看護上の問題表現 2）問題の優先順位をつける 4. 看護計画の立案 1）目標設定 2）計画立案 5. 実施 6. 評価 7. 看護記録 1）法的規定 2）意義と目的 3）構成要素 4）記載基準と方法 5）看護記録および診療情報の取扱い 8. 事例展開（演習） 1）ADLに支障がある患者の事例	講義 演習

評価方法	事例展開（演習）の課題の提出は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100％
履修上の留意点	

科目コード№40

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 共通基本技術Ⅱ　ヘルスアセスメント	1年次・後期	1単位 30H（15 コマ）	石井　喜久子 山本　優子

学習目標	1.　ヘルスアセスメントの意義を理解し、看護過程の一領域であることを認識することができる。 2.　バイタルサイン・身体計測の技術を習得することができる。 3.　系統別フィジカルアセスメントの視点を理解し、その技法を習得することができる。 4.　対象者の健康問題を把握し、適切な看護を提供するために的確なアセスメントテクニックを活用することができる。
テキスト・参考文献	1.　看護がみえる③　フィジカルアセスメント　メディックメディア 2.　新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	テキスト内の自己学習課題、および解剖生理学分野を事前に学習し臨むこと。 テキストと配付資料を熟読すること。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. ヘルスアセスメントとは何か 2. フィジカルアセスメントの基本 1）バイタルサインとは 2）身体計測 3）フィジカルアセスメントの基本技術 3. 系統別のアセスメント 1）皮膚・爪・髪のアセスメント 2）リンパ系のアセスメント 3）頭部・顔面・頸部のアセスメント 4）鼻・耳・口腔／咽頭のアセスメント 5）眼（視覚）のアセスメント 6）肺（呼吸器系）のアセスメント 7）心臓（循環器系）のアセスメント 8）乳房・腋窩のアセスメント 9）腹部（消化器系）のアセスメント 10）生殖器（女性・男性）と肛門のアセスメント 11）筋・骨格系のアセスメント 12）神経系のアセスメント	講義
	4. フィジカルアセスメントの実際（演習） 1）呼吸器系 2）循環器系 3）脳神経系 4）消化器系 5）筋・骨格系 6）身体計測 7）バイタルサインの測定	演習

評価方法	演習4-1）、2）、4）、7）の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100％
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№41

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 共通基本技術Ⅲ コミュニケーション･安全管理	1年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	木村 泰輔 久保 真美

学習目標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための技術を習得する。 2. 看護における安全の意義を理解し、安全の基本に基づいた看護を実践するための技術を習得する。 3. 感染予防の意義と感染予防技術の基本を理解し、原理・原則に沿った手洗い・滅菌操作の技術を習得する。
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. コミュニケーションの技術 1） コミュニケーションとは 2） 看護とコミュニケーション 3） 医療における信頼関係とコミュニケーション 4） 看護場面の再構成と分析	講義
	2. 安全管理の技術 1） 看護事故の構造と防止の視点 2） 看護事故防止のための対策 （演習含む） （1）患者の誤認防止策の実施 （2）誤薬防止 （3）安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防） （4）放射線の被ばく防止策の実施 （5）人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施 3） 組織としての事故防止対策	演習
	3. 感染予防の技術 1） 感染予防対策の基本（スタンダード プリコーション） 2） 感染予防における看護師の責務と役割 3） 感染源への対策 4） 感染経路への対策	
	4. 援助の実際（演習） 1） 看護場面におけるコミュニケーション 2） プロセスレコード 3） スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い 4） 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱 5） 使用した器具の感染防止の取り扱い 6） 感染性廃棄物の取扱い 7） 無菌操作 8） 針刺し事故の防止・事故後の対応	演習

評価方法	筆記試験 100％
履修上の留意点	

科目コードNo.42

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 生活支援技術Ⅰ　活動と休息、環境調整	1年次・前期	1単位 30H(15コマ)	工藤　稔之 山本　優子

学習目標	1. 人間にとっての環境の意義を理解し、対象が健康的で安楽な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 2. 人間にとっての活動と運動の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 3. 人間にとっての睡眠と休息の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2. 看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 環境調整のための看護技術 1）安楽を保つための医療環境の調整 プライバシー保護と環境整備、換気と臭気の排除、室温と湿度の保持 騒音の原因と排除、採光と照明、床とベッド、病室の整備 2. 活動と運動の援助 1）活動と運動の意義 2）活動と運動の生理的メカニズム 3）活動と運動のニーズのアセスメント 4）活動と運動の援助 5）自動・他動運動 3. 睡眠と休息の援助 1）睡眠と休息の意義 2）睡眠と休息の生理的メカニズム 3）睡眠と休息のニーズのアセスメント 4）睡眠と休息を促す援助 4. 安楽確保の技術 1）看護における安楽	講義
	2）安楽な姿勢と動作のための技術（ボディメカニクス：演習） 3）安楽な体位の調整	演習
	5. 援助の実際（演習） 1）快適な療養環境の整備　　2）臥床患者のリネン交換 3）車いす・ストレッチャー移送　　4）歩行・移動介助 5）移乗介助　　6）体位変換・保持　　7）自動・他動運動 8）安楽な体位の調整　　9）安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 10)精神的安寧を保つためのケア	演習

評価方法	演習　5-2)、5)、6)の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100％
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№43

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 生活支援技術Ⅱ　食生活と排泄	1年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	小野寺　江利子 畠山　幸喜

学習目標	1.　人間にとっての食事の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 2.　人間にとって排泄の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2.　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 食生活と栄養摂取の援助方法 1）食事と栄養の意義 2）食事・栄養摂取に影響する要因 3）食事・栄養状態のアセスメント 4）食事摂取の自立困難な患者の援助 5）経管栄養法 6）経静脈栄養法 2. 排泄の介助 1）排泄の意義 2）排泄に影響する要因 3）排泄のアセスメント 4）自然な排便・排尿を促す援助 5）トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助方法 6）床上での排泄の援助 7）浣腸・摘便 8）膀胱留置カテーテルの挿入と管理 9）尿失禁・便失禁のある患者の援助 10)ストーマ管理	講義
	3. 援助の実際（演習） 1）食事介助（嚥下障害のある患者を除く） 2）経管栄養法による流動食の注入 3）経鼻胃チューブの挿入 4）排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等） 5）導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入と管理 6）浣腸 7）摘便	演習

評価方法	演習3-1)、2)、4)の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100%
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№44

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野:基礎看護学 生活支援技術Ⅲ　清潔	1年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	小笠原　みや子 畠山　幸喜

学習目標	1.　人間にとっての清潔の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 2.　人間にとっての衣生活の意義を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2.　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 清潔・衣生活の援助 1）清潔・衣生活の意義 2）清潔・衣生活に影響する要因 3）清潔・衣生活のアセスメント 4）清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助 5）身体各部の清潔援助 口腔ケア、 手浴・足浴、 陰部洗浄、 洗髪、 入浴・全身清拭、身だしなみ・整容、 寝衣交換（点滴・ドレーン等を留置している患者を含む）	講義
	2. 援助の実際（演習） 1）口腔ケア 2）手浴・足浴 3）陰部の保清 4）洗髪 5）清拭 6）入浴・シャワー浴の介助 7）整容 8）点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 9）点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習

評価方法	演習2-3)、5)の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100%（技術試験の実施については担当講師が決定する。）
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№45

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 回復促進支援技術Ⅰ　検査と看護	2 年次・前期	1単位 15H（7コマ）	田中　陽子

学習目標	1.　検査の意義および検査における看護師の役割を理解する。 2.　検査介助の基本と種類を理解する。 3.　検体の採取方法を習得する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2.　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 検査に伴う看護 1）検査・診察場面における看護師の役割 2）検査介助の基本 3）検査の種類 2. 検体検査の方法と看護 1）尿　2）便　3）喀痰　4）血液　5）胸水 6）腹水　7）骨髄液 3. 生体検査における看護 1）X線検査　2）X線断層撮影　3）MRI　4）血管造影 5）内視鏡検査　6）超音波検査　7）核医学検査 8）肺機能検査　9）心電図検査・心電図モニター 10）経皮的動脈血酸素飽和度	講義
4. 検体採取および検査の実際（演習） 1）検体（尿、血液等）の取扱い 2）静脈血採血 3）簡易血糖測定 4）検査の介助 5）心電図モニターの操作と管理	演習

評価方法	演習4-2）の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100％
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№46

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 回復促進支援技術Ⅱ　呼吸循環を整えるための看護	2年次・前期	1単位 15H（7コマ）	乙坂　亜紀子

学習目標	1.　呼吸循環の生理学的メカニズムを理解する。 2.　呼吸循環を整えるための治療・処置の意義・目的を理解し、治療・処置を受ける患者に必要な援助方法を習得する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2.　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 呼吸・循環・体温調整の援助 1）呼吸・循環・体温調整の生理学的メカニズム 2）呼吸・循環・体温調整のアセスメント 3）呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 4）排痰法 5）酸素吸入の適応と方法 6）口腔内・鼻腔内・気管内吸引 7）胸腔ドレナージの管理 8）人工呼吸療法 9）末梢循環促進の援助 10）体温調節の援助	講義
	2. 援助の実際（演習） 1）体温調節の援助（温罨法・冷罨法） 2）酸素吸入療法の実施 3）酸素ボンベの操作と管理 4）口腔内・鼻腔内・気管内吸引 5）体位ドレナージ	演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№47

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 回復促進支援技術Ⅲ　治療・処置と看護	2年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	加藤　聡子 山本　優子

学習目標	1.　安静療法の意義・目的とその弊害について理解し、安静療法が必要な対象に必要な援助方法を習得する。 2.　薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象に必要な援助方法を習得する。 3.　輸血の意義・目的を理解し、輸血を受ける対象に必要な援助方法を習得する。 4.　皮膚・創傷処置の意義・目的を理解し、創傷処置を受ける対象に必要な援助方法を習得する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社 2.　看護がみえる①　基礎看護技術　メディックメディア 3.　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 安静療法時の看護 1）安静療法の意義・目的 2）安静療法による弊害 3）安静療法時の援助 2. 薬物療法と看護 1）薬物療法の意義・目的 2）薬物療法における看護師の役割 3）薬物療法に関する基礎知識 4）援助時の共通事項 5）各種薬物療法の援助方法と観察 経口与薬法、口腔内与薬法、直腸内与薬法、点眼・点入法、 外用薬の塗擦法、吸入法、注射法 3. 輸血時の看護 4. 創傷処置の看護 1）皮膚・創傷に関する基礎知識 皮膚障害の種類・創傷治癒の過程・創傷のアセスメント 2）創傷の観察と保護の方法（ドレッシング） 3）包帯法	講義
	5. 援助の実際（演習） 1）薬物療法 経口薬（バッカル錠、内服薬、舌下錠）、経皮・外用薬、座薬の投与 皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保・点滴静脈内注射と管理 薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む） 2）輸液ポンプ・シリンジポンプの操作・管理 3）創傷処置 4）褥瘡予防ケア 5）輸血の管理	演習

評価方法	演習5-1）薬物療法（皮下注射、筋肉注射、点滴静脈内注射）の実施は単位認定の必須条件とする。 筆記試験　100％
履修上の留意点	基礎看護技術の演習は指定規則に定められている項目である。やむを得ず欠席した場合は、自ら技術練習を行った上で、担当教員の指導を受けるよう調整すること。

科目コード№48

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 臨床判断基礎	2 年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	石井　喜久子

学習目標	1.　臨床推論・臨床判断の概要を理解する。 2.　主要症状・経過別看護の基礎知識を活用し、必要な看護を推測・判断する。 3.　対象の変化に気づき、ファーストアセスメント・フォーカスアセスメントができる。
テキスト・ 参考文献	1.　アセスメントに自信がつく臨床推論入門　MCメディカ出版 ＜参考文献＞ 1.　臨床推論トレーニングブック　金芳堂 2.　臨床判断ティーチングメソット　医学書院 3.　臨床看護総論-基礎看護学④　医学書院
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	1. 臨床判断の定義・4つのフェーズ（段階） 2. 臨床推論の定義・プロセス 3. 臨床判断-気づきのトレーニング 　日常生活場面から療養生活を想定する看護師の判断と根拠 4. 健康状態の経過に基づく看護 　1）急性期　2）慢性期　3）回復期　4）終末期 5. 主要な症状を示す対象者への看護 　1）発熱　2）呼吸困難　3）腹痛　4）浮腫　5）胸痛 6. ファーストアセスメント・フォーカスアセスメント（講義） 　1）ファーストアセスメント：医療場面～緊急度 　2）フォーカスアセスメント：状態に応じた看護行為 7. 主要症状のファーストアセスメント・フォーカスアセスメント（演習） 　気づき（主要症状）、仮説を立てながら必要な情報を考える 　発熱、呼吸困難、浮腫、高血圧・低血圧、しびれ・麻痺 8. シミュレーション・個人課題（総合まとめ、試験）	講義 演習

評価方法	筆記試験　50% 課題レポート　50%
履修上の 留意点	

科目コード№49

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 看護倫理	3 年次・後期	1単位 15H（7コマ）	五戸　美智子

学習目標	1.　看護倫理について学び、高度に発展する医療・福祉の中で、人間の尊厳・人権を護る役割について理解する。 2.　人権擁護と看護の責任について追求する姿勢を身につける。 3.　看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを習得する。
テキスト・ 参考文献	＜参考文献＞ 1.　看護者の基本的責務～定義・概念/基本法/倫理～　日本看護協会出版会
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 倫理・看護倫理とは 1）倫理とは 2）看護倫理とは 3）医療の倫理原則 2. 人権擁護と看護の責任 1）基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳 2）患者の権利と擁護 (1)自己決定権と患者の意志 (2)インフォームド・コンセント (3)ノーマライゼーション 3)情報管理（個人情報の保護） 3. 看護における倫理の重要性 1）看護師の倫理的責任と看護職の法的責任 2）看護の倫理原則 3）倫理的意思決定モデル 4. 哲学的な理論 5. 看護専門職の倫理綱領 1）国際看護師協会の倫理綱領 2）日本看護協会の倫理綱領 3）米国看護師協会の倫理綱領	講義
	6. 倫理的意思決定（事例検討：演習）	演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コード№50

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：基礎看護学 看護研究	2年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	小沢　久美子

学習目標	1.　看護研究の意義とプロセスを理解する。 2.　文献検索のしかた、資料の収集、整理、分析のしかたについて理解する。 3.　研究発表の種類と方法について理解する。 4.　看護研究における倫理的配慮について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　看護研究こころえ帳　研究の基本からプレゼンテーションまで　超基本マナー　医歯薬出版
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1.　研究と実践活動	講義
	2.　研究の種類と特徴	
	3.　看護研究の意義	
	4.　看護研究の研究デザイン	
	5.　研究のプロセス	
	6.　看護研究と倫理	
	7.　研究の実際（演習） 1）研究論文のクリティーク 2）研究テーマ・目的 3）研究の方法 4）研究の分析方法 5）研究計画書の作成	演習

評価方法	課題レポート　100％
履修上の 留意点	

専門分野　地域・在宅看護論

＜授業概要＞

現在日本は超高齢・少子・多死社会に突入しており、この傾向は今後も進んでいくと予想される。これに伴い医療システムは、病院中心の医療から、医療・ケアと生活が一体化した「地域完結型」の体制へと転換が図られた。地域での生活と健康が維持されるためには「自助・互助・共助・公助」それぞれが連動して機能することが重要である。

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な看護を学ぶ。地域には、幅広い年代・様々な健康状態の人が生活している。その一人ひとりのニーズに応え、生活と医療の両方の視点をもち、予防から医療ケア、地域で支え合う仕組みづくりとなる「地域包括ケアシステム」を理解してケアを展開する役割が、看護に期待されている。地域に暮らす人々を支える看護は、看護の土台としての重要な位置づけになる。

まず、地域での人々の暮らし、それを支える地域のコミュニティについて学び、人々の日常の生活の意義、自助・互助・インフォーマルなサービスについて理解する。地域で暮らす人々の健康状態や家族の多様性、それを支える仕組みについて理解したうえで、専門的な知識と技術を学んでいく。

在宅看護は、すべての年齢、看取りを含むあらゆる健康レベルにある人が対象であり、疾病や障害の予防や生活支援を含んだ広範囲にわたる看護が提供される。在宅看護の背景や基本理念について学び、住み慣れた地域で生活を継続する意義、自己決定に基づく健康維持・療養生活への支援、在宅看護に移行するるための支援の在り方について理解する。

地域での生活が継続できるためには、多職種連携・地域連携が必須となる。地域療養を支える多職種、多機関、施設の特性、職種間・施設間連携の実際を学び、多職種と協働する知識と姿勢を身につけなければならない。

科目名	ねらい
生活環境論	看護の対象は地域で暮らす人々である。その人々の健康と暮らしを支援する看護の役割を知るために、身近な地域の特性、暮らす人々の特性、地域コミュニティ活動の実際を知り、暮らしを支えるために何が必要かを理解する。
地域・在宅看護の対象	地域に暮らす人々は年齢、職種、健康状態など多種多様である。その対象の特性を深く理解するため、家族の機能と役割について知識を身に付ける。また、住み慣れた地域でのその人らしい生活を支えるための地域包括的ケアシステムの知識を修得する。
地域・在宅看護論概論	疾病や障害があっても生活の質を維持し地域で暮らし続けることを多職種と連携して支援するために、地域療養を支える制度、在宅看護の生活の場に応じた看護の特徴、訪問看護活動、療養の場が多様化する中での看護の継続性など、地域・在宅看護の基盤となる知識を修得する。

在宅療養者の生活支援技術	様々な健康レベルの多様な場で生活する人とその家族の状況に応じた生活支援ができるために、訪問看護の基本技術、日常生活と療養を支える看護技術を習得する。
在宅療養者の健康状態に応じた看護	地域で療養する人とその家族の安心した在宅生活を支援するために、年齢・疾患・健康レベル・生活状況に応じて行われる看護の方法について知識を修得する。
ケアコーディネート	対象とその家族の意思決定を支え、生活の場の円滑な移行が円滑に進むように、多職種との連携・協働の方法と看護の果たす役割を理解する。また、そのために他職種の役割や業務を理解し、効果的連携のための知識を深める。

科目コードNo.51

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：地域・在宅看護論 生活環境論	1年次・前期	1単位 15H(7コマ)	小野寺　江利子

学習目標	1.　地域で暮らす人々とその家族を理解する。 2.　暮らしが健康に与える影響を理解する。 3.　地域のコミュニティ活動と健康への影響を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　ナーシンググラフィカ　基礎からわかる地域・在宅看護論　照林社
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 地域に暮らす人々 1）個人の暮らし 2）個人の暮らしに関わる人々・家族 3）地域の人々のくらし 4）ライフステージからみる暮らし	講義
2. 地域の人々の健康を守る仕組み 市役所、保健所、保健センター、病院、診療所など	
3. 地域の健康を守る人々・職種 地域住民の活動・市町村の取り組み・ボランティア・NPO 医療職・福祉職など	
4. 地域のコミュニティの場（GW） 互助の活動の目的・種類・効果をまとめる	GW
5～6. フィールドワーク　地域活動への参加 近隣の町内や自分の生活圏内の地域活動に参加する。 目的、概要、活動の実際、住民に与える影響をまとめる	
7. 地域の人々の暮らしと健康（討議・課題レポート） 暮らしや地域活動が健康への与える影響	討議

評価方法	課題レポート　50% 筆記試験　50%
履修上の 留意点	

科目コードNo.52

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野:地域・在宅看護論 地域・在宅看護の対象	1年次・後期	1単位 15H(7コマ)	工藤　稔之

学習目標	1.　様々な健康状態にある人の暮らしと、暮らしを守る地域の支援について理解する。	
テキスト・参考文献	1.　基礎からわかる地域・在宅看護論　照林社 2.　ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版 3.　国民衛生の動向　厚生統計協会	
事前・事後学習	<共通>テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 地域・在宅看護の対象 1） ライフサイクルから見た対象 2） 健康障害レベル・疾患から見た対象 3） 暮らしの場から見た対象 2. 地域・在宅療養の場における家族の捉え方 1） 家族の定義、家族の機能と役割 2） 家族発達理論、家族システム理論、家族のストレス理論 3. 日本における家族の特徴・家族形態に応じた看護 1） 家族のアセスメントモデル 4. 暮らしの場における看護の対象 1） 健康診断 2） 医療機関の外来 3） 訪問サービス（訪問診療・訪問看護・介護サービス等） 4） 入所施設 5） 通所施設	講義
	5. 身近にある地域包括ケアシステムを理解する 1） 地域包括支援センターの地域活動 2） 介護予防教室 3） 健康相談・実態調査 4） インフォーマルサービス等の見学 6. 地域の人々が望む生活と看護活動の展望 1） 看護上の課題・問題 2） 予防活動	見学
評価方法	筆記試験　100％	
履修上の留意点		

科目コード№53

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：地域・在宅看護論 地域・在宅看護論概論	2年次・前期	1単位 15H(7コマ)	久保　真美

学習目標	1.　地域で療養する人を理解し、自立支援・継続看護の方法について理解する。 2.　訪問看護ステーションの機能と活動を理解する。 3.　療養者の疾患の特徴とケアのポイント、利用できる社会資源を理解する。
テキスト・参考文献	1.　ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版 2.　ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　メディカ出版 3.　国民衛生の動向　厚生統計協会
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	1. 地域・在宅看護の対象と背景 1）国民の価値観　2）疾病構造　3）地域・在宅ケアの必要性 2. 在宅看護の目的と役割 1）看護の継続性　2）在宅看護の目標　3）在宅看護の基本 4）家族介護者の理解と健康支援(アセスメント、関係調整、介護者の健康、レスパイトケア) 5）地域・在宅看護における権利保障 (1)自己決定支援　(2)権利擁護(アドボカシー、成年後見制度) (3)サービス提供者の権利擁護　(4)虐待防止 (5)個人情報の保護と開示 6）在宅療養者の自立・自律支援 (1)個人の尊重　(2)意思決定支援　(3)QOL 維持・向上 (4)セルフケア　(5)社会参加 3. 在宅看護の対象の理解 1）在宅看護を必要とする人と家族、抱えている問題、生活環境 2）社会資源活用のニード 4. 社会の変遷と保健医療福祉対策の関係 1）在宅看護の変遷　2）在宅看護と地域看護　3）訪問看護制度 4）地域・在宅に関わる社会保障制度 (1)健康保険法　(2)介護保険法　(3)障害者総合支援法 5）診療報酬・介護報酬と訪問看護 6）地域包括ケアシステム 5. 訪問看護の活動と特徴 1）訪問看護の特性、対象、形態、役割 2）訪問看護に必要なこと、今後の課題 6. 在宅における援助技術 1）生活ケアと医療的ケア 7. 在宅看護の動向と今後の発展	講義・演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№54

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：地域・在宅看護論 在宅療養者の生活支援技術	2年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	木村　めぐみ 堤洋子・佐々木寿美子

学習目標	1.　在宅における援助の基本技術を理解する。 2.　生活環境の調整の必要性と方法を理解する。 3.　在宅におけるフィジカルアセスメントを理解する。 4.　在宅における日常生活支援技術(日常生活援助と医療処置)を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　メディカ出版
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	1. 基本技術 （演習） 1） コミュニケーション技術　2） 初回訪問の面接技術、相談・指導技術 3） 訪問時のマナー 2. 生活環境の調整 1） 安全で快適な居住環境の条件　2） 社会資源の活用と工夫 3. 在宅におけるフィジカルアセスメント(演習) 1） 症状・徴候アセスメント　2） 身体機能別アセスメント 3） 在宅療養者のフィジカルアセスメント (1)在宅酸素をしている人の呼吸管理(スクイージングの効果判定) (2)誤嚥性肺炎をくり返す高齢者(食事と誤嚥の関係性の検証) 4. 在宅における看護技術(演習を含む) 1） 食事・栄養 (1)安全性、安楽性(楽しみ) (2)栄養補助食品の種類と選択方法 (3) 経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) (4)中心静脈栄養法の管理 2） 排泄 (1)快感を得るケア、羞恥心を与えないケア　(2)摘便の方法 (3)膀胱留置カテーテルの管理、膀胱洗浄　(4)ストーマケア 3） 清潔・衣生活 (1)工夫、安全、気分転換　(2)入浴(シャワー浴)　(3)褥瘡の管理 4） 活動・移動・休息 (1)自由、生活拡大、安全　(2)移動補助具(リフト等) (3)畳の上での移動　(4)生活リズム 5） 呼吸・循環 (1)在宅酸素療法　(2)在宅人工呼吸療法 (3)気管切開部の管理　(4)気管内吸引 6） 外来がん化学療法・疼痛緩和 7） 服薬管理・指導の実際 (1)パーキンソン病・糖尿病(特定疾病と社会資源活用指導) (2)医師・薬剤師との連携	講義 演習 演習 演習
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の 留意点		

科目コード№55

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：地域・在宅看護論 在宅療養者の健康状態に応じた看護	2年次・後期	1単位 30H（15 コマ）	加藤 聡子・杉本 直子 久保 真美

学習目標	1. 安心した在宅生活に必要な看護を理解する。 2. 在宅における終末期の看護を理解する。 3. 難病で療養する対象、障害をもちながら生活する対象の看護を理解する。 4. 在宅で療養する高齢者・子どもへの看護を理解する。
テキスト・参考文献	1. ナーシンググラフィカ 在宅療養を支える技術 メディカ出版
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 安心した生活の保障 1） 24 時間の連絡体制、相談、訪問 2） 災害時の被災予防 2. 在宅療養者と家族への安全管理 1） 感染防止 2） 転倒・転落防止 3） 熱中症防止 4） 熱傷・凍傷防止 5） 独居高齢者の火災予防 6） 閉じこもり 7） 虐待の防止 8） 誤嚥・窒息 9） 介護力の予測 10）情報管理 3. 在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養準備期・在宅療養移行期・安定期・急性増悪期・終末期・終了期 4. 終末期を迎えた対象の看護 1） 疾病の特徴と療養の経過 2） 症状コントロール（緩和ケア） 3） 自己決定への支援、家族へ支援 4） 24 時間の支援体制 5） グリーフワーク 6） 看取りと他職種の連携 5. 難病で療養する対象の看護 1） 疾病の特徴と療養の経過 2） 難病対策要綱 3） 家族への支援（レスパイトケア） 6. 障害をもちながら生活する対象の看護 1） 障害に応じた看護 （1）身体障害（CAPD 管理など）（2）精神障害 2） 住環境調整 3） 生活拡大への支援 4） 障害者総合支援法 7. 寝たきり、認知症の高齢者の看護 1） 疾病の特徴と療養の経過 2） 日常生活自立度・要介護度 3） 家族への支援 4） 介護保険法 5） 成年後見制度 8. 在宅で療養する子どもへの看護 1） 発達や教育を踏まえた援助 2） 家族への支援 3） 子どもの療養生活を支える制度	講義
	9.在宅療養者と家族のアセスメントとケア計画（事例展開：演習） 1） 在宅療養者のフィジカルアセスメント、家族介護力のアセスメント、援助実践 （脳機能障害をもつ療養者、難病をもつ療養者など）	演習

評価方法	筆記試験 100%
履修上の留意点	講義に登場する事例の疾患については、事前に学習して臨むこと。 演習では、地域・在宅看護論や他の講義で得た知識も活用し、積極的姿勢でグループワークに取り組むこと。

科目コードNo.56

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：地域・在宅看護論 ケア・コーディネート	3年次・前期	1単位 15H（7コマ）	工藤　ゆかり 小野寺　江利子

学習目標	1.　看護サービス利用者に必要なケアを調整する技術を習得する。 2.　看護サービス利用者の援助に必要なケアを調整する方法を理解し、展開できる。
テキスト・ 参考文献	1.　ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	1. 看護サービス利用者の退院支援ニーズの把握と援助 2. 在宅療養者の支援ニーズの把握と援助 3. 調整に必要なコミュニケーション術 4. 療養の場の移行に伴う看護 1）入退院に関する患者の意思決定支援 2）退院支援・退院調整のプロセス、仕組み 3）退院調整に関わる職種とその役割 4）入退所に関する患者・家族の意思決定支援・調整 5）退院までのシミュレーション（演習） 5. 地域包括ケアシステムにおける連携 1）地域連携パスの理解 2）外来・地域連携部門との看看連携 3）多職種連携・協働 （他職種の役割と業務：リハビリテーション職種の学生と共同学習） 4）地域包括支援センターとの連携 5）サービス事業者との連携 6）地域住民との連携 7）連携に関わる看護の役割 6. ケアマネジメント・ケースマネジメント 1）ケアマネジメント・ケースマネジメントの概念 2）ケアマネジメント・ケースマネジメントの過程 3）ケアマネジメント・ケースマネジメントの実際（事例演習） 4）社会資源の理解と活用	講義 演習 リハビリテーション専門学校の学生との共同学習 演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

専門分野　成人看護学

＜授業概要＞

成人期は老年期を迎えるまでの 40 年間といわれており、人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割と責任を背負っている年代である。仕事や人間関係において社会との繋がりが強く、外部環境からの影響を受ける機会が多い。その刺激を家庭・社会生活の中でうまく調和させ、心身共に充実した時をもつことができる年代である。人間関係も複雑、多様で、社会的出来事やそれに関連した健康問題（生活習慣病、悪性腫瘍、自殺など）は多岐にわたり、ライフスタイルと健康は切り離して考えることはできない。

成人看護学では、生活と労働の視点で対象と病気を捉え、援助するということについて考える。成人にとっての労働は、単に生活を営むための手段ではなく、労働を通じて社会的関係を結び、労働によって自分自身を変化・成長させるものである。成人の健康は労働と生活の中に生きがいや喜びを感じることで増進される側面もある。

成人看護学では、成人の特徴を踏まえたその人にとって最適な健康状態を維持・促進するための支援の方法について学ぶ。また成人期は年齢とともに生活習慣の影響による様々な疾患が顕在化してくる時期でもある。それらの疾患に伴う機能障害に対する看護の方法について基礎的知識・技術を学習する。また、疾病の急性期から回復期、生活の再構築、その人らしい最期など、健康レベルに応じた看護について学習する。

科目名	ねらい
成人看護学概論	成人期は人生で最も長く、多くの役割を担い、変化が著しい期間である。生活習慣病、精神障害など健康に障害をきたしやすいため、成人各期の特徴と健康問題、健康レベルに応じた看護、健康維持に向けた行動変容への支援について理解する。また、急性期から終末期まで経過に応じた看護の特徴を理解する。
成人看護援助論Ⅰ 主な疾患と看護 周手術期看護、がん看護、リハビリテーション看護、救命救急看護	成人期にある人の多様な健康状態に対応するため、救急対応を要する状態の看護、手術前・手術中・手術後の看護、癌の経過や治療における看護、生活への再適応・再構築を目指すリハビリテーション看護、それぞれの援助方法を理解する。
成人看護援助論Ⅱ 循環機能・内部環境機能内分泌機能に障害のある人の看護	循環機能障害、内分泌機能障害、内部環境機能障害に応じた看護をするために、それぞれの機能障害による症状、検査・治療に対する援助を理解する。
成人看護援助論Ⅲ 呼吸機能・生体防御機能に障害のある人の看護	呼吸機能障害、生体防御機能障害に応じた看護をするために、それぞれの機能障害による症状、検査・治療に対する援助を理解する。

成人看護援助論Ⅳ 消化吸収機能・栄養代謝機能・排泄機能・性生殖機能に障害のある人の看護	消化吸収機能障害、栄養代謝機能障害、排泄機能障害、性生殖機能障害に応じた看護をするために、それぞれの機能障害による症状、検査・治療に対する援助を理解する。
成人看護援助論Ⅴ 脳神経機能・運動機能・感覚機能に障害のある人の看護	脳神経機能障害、運動機能障害、感覚機能障害に応じた看護をするために、それぞれの機能障害による症状、検査・治療に対する援助を理解する。

科目コード№57

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：成人看護学 成人看護学概論	1年次・後期	1単位 30H(15コマ)	松浦まり子・田中幸子

学習目標	1.　成人看護学の概要をふまえ、成人期にある人の特徴を理解する。 2.　わが国の成人をとりまく社会環境と健康課題を理解する。 3.　成人看護の目標と役割について理解する。 4.　成人におけるヘルスプロモーションの機能と活動内容の概要を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座　成人看護学[1]　成人看護学総論　　医学書院 2.　国民衛生の動向　　厚生統計協会
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 成人看護の対象 1）ライフサイクルからみた成人期 2）成人期の区分 3）成人期の看護問題とその把握 2. 成人各期の特徴と保健問題 1）青年期　2）壮年期　3）向老期 3. 成人保健 1）成人保健の動向と対策 2）生活習慣病の予防 3）成人保健と性 4）成人保健と労働 4. 成人の健康レベルに応じた看護 1）ヘルスプロモーションと看護 2）健康を脅かす要因への看護 3）健康レベル別の成人の特徴と看護 (1)急性期にある人の看護 (2)慢性疾患と共存する人の看護 (3)回復期にある人の看護 (4)終末期にある人の看護 5. 成人看護のアプローチの基本 1）学習者である成人への看護技術 2）意思決定支援 3）成人における倫理的課題 4）家族支援	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コードNo.58

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：成人看護学　成人看護援助論Ⅰ 主な疾患と看護 周手術期看護、がん看護、リハビリテーション看護、救命救急看護	2年次・前期	1単位 30H(15コマ)	八戸赤十字病院 八戸西病院

学習目標	1.　周手術期の患者の特徴と看護について理解する。 2.　がん患者の特徴と看護について理解する。 3.　リハビリテーション期にある患者の特徴と看護について理解する。 4.　救命救急対応を要する患者の特徴と看護について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　成人看護学[1]成人看護学総論　医学書院 2.　系統看護学講座　基礎看護学[4]臨床看護総論　医学書院 ＜参考文献＞ 1.　系統看護学講座　別巻　救急看護学、がん看護学、緩和ケア　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	[周手術期看護] 1. 手術療法と周手術期における看護師の役割 2. 手術療法による生体への侵襲 1）術後の経過と生体反応　2）手術侵襲に対する神経・内分泌の反応 3）周手術過程の症状（疼痛、咳嗽・痰、高血圧・低血圧、多尿・乏尿・無尿、脱水、発熱、感染） 3. 術式による特徴的な手術看護 開頭術・開心術・開胸術・開腹術、感覚器・運動器・頭頸部の手術・鏡視下手術・日帰り手術 4.周手術期の看護 1）術前の看護　2）手術当日の看護 3）手術中の看護（体位・麻酔による影響、安全管理） 4）手術後の看護（生体反応、疼痛管理、創傷管理、ドレーン管理） 5. 術後合併症の予防 1）術後出血　2）下肢静脈血栓・肺塞栓症　3）呼吸器合併症 4）感染症　5）イレウス　6）縫合不全　7）DICとMOF 8）術後せん妄 6. 術後の機能障害や生活制限への看護 1）ボディイメージへの支援　2）退院調整　3）機能訓練 4）セルフケア能力獲得 [がん看護] 1. がん患者の抱える苦痛 1）転移・浸潤　2）再発や経過の不確かさに伴う心理的苦痛 3）社会的偏見や制約に伴う苦痛　4）スピリチュアルな苦痛 2. がん患者の生活上の困難 全身消耗、倦怠感、疼痛に伴う活動制限 3. がん患者の治療と看護 1）広範囲で侵襲性の高い手術療法 2）化学療法を受ける対象への援助 3）放射線療法を受ける患者への援助 4. がん患者の社会参加への支援 5. 緩和ケア・エンドオブライフケア	講義　演習

科目コード№58

	[リハビリテーション看護] 1. リハビリテーションの特徴 　1）患者の特徴　2）リハビリテーション医療チームの協働 2. 機能障害のアセスメント 　1）生活機能障害と日常生活動作　2）住居環境 3. 障害に対する受容と適応への看護 　1）安全と安楽を保つための援助　2）廃用症候群の予防 　3）日常生活動作・活動範囲拡大に向けた看護 　4）補助具・自助具の活動　5）障害受容・心理的葛藤への援助 4.経過別のリハビリテーションと看護 5. チームアプローチと社会資源の活用 　1）多職種連携　2）社会資源の活用 6. 患者の社会参加への支援 　1）就労条件・環境の調整　2）社会参加を促す要素と阻害要因 [救命救急看護] 1. 緊急度と重症度のアセスメント 2. 救急看護・クリティカルケアの基本 　1）救急看護の特徴 　2）集中治療を受ける対象者への看護 　　集中治療室の特徴・環境、集中治療室で行われる治療・検査・処置 　3）集中治療を受ける対象者とその家族の特徴と援助 　　心肺停止状態、ショック、急性症状、中毒、環境要因による障害（体温異常・熱中症）、感染症、脳死・臓器移植 　4）創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 　　創傷・熱傷 　5）治療用医療機器の原理と実際 　　人工呼吸器、除細動器	
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の留意点		

科目コード№59

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：成人看護学　成人看護援助論Ⅱ 循環機能・内部環境・内分泌機能障害の看護	2年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	八戸赤十字病院 看護師

学習目標	1.　各機能障害が生活に与える影響を理解する。 2.　各機能障害に行われる検査・処置・治療における看護を理解する。 3.　各機能障害の経過・症状に応じた看護について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座　成人看護学[3]　循環器　　医学書院 2.　系統看護学講座　成人看護学[6]　内分泌・代謝　　医学書院 3.　系統看護学講座　成人看護学[8]　腎・泌尿器　　医学書院
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	[循環機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）ポンプ機能障害　2）刺激伝導障害 3）血管・リンパ管障害　4）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）心電図　2）心血管超音波 3）血管造影　4）心臓カテーテル 3. 治療を受ける患者への看護 1）経皮的冠動脈形成法　2）冠動脈バイパス術 3）弁置換・弁形成術　4）大動脈バルーンパイピング 5）ペースメーカー　6）植え込み式除細動器 7）血栓溶解療法・血栓除去術 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）心不全　2）虚血性心疾患　3）弁膜症 4）不整脈　5）閉塞性動脈硬化症 [内部環境機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）体温調節機能障害　2）血糖調節機能障害 3）体液量調節機能障害　4）電解質調節機能障害 5)酸塩基平衡調節機能障害　6）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）糖負荷試験　2）血糖自己測定 3）静脈性尿路造影　4）腎生検 3. 治療を受ける患者への看護 1）インスリン補充療法　2）糖尿病経口薬による治療 3）食事・運動療法　4）急性期持続血液濾過透析 5）血液透析　6）腹膜透析　7）腎移植 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）低体温症　2）1型糖尿病　3）2 型糖尿病 4）急性腎不全　5）慢性腎不全　6）慢性腎臓病 7）腎移植術後 [内分泌機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）甲状腺機能障害　2）副腎機能障害	講義　演習

科目コード№59

	3） 下垂体機能障害　4） 生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1） ホルモン血中・尿中濃度測定　2） ホルモン負荷試験 3. 治療を受ける患者への看護 1） 甲状腺ホルモン療法　2） 甲状腺切除術 4. 病期や機能障害に応じた看護 1） 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症・低下症） 2） 腫瘍（甲状腺癌、下垂体腫瘍）	
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の留意点		

科目コード№60

<table>
<tr><th colspan="2">授業科目</th><th>履修年次・学期</th><th>単位・時間</th><th>講師名</th></tr>
<tr><td colspan="2">専門分野：成人看護学　成人看護援助論Ⅲ
呼吸機能障害・生体防御機能障害の看護</td><td>2年次・前期</td><td>1単位
30H（15 コマ）</td><td>八戸赤十字病院
看護師</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="4">1.　各機能障害が生活に与える影響を理解する。
2.　各機能障害に行われる検査・処置・治療における看護を理解する。
3.　各機能障害の経過・症状に応じた看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・
参考文献</td><td colspan="4">1.　系統看護学講座　成人看護学[2]　呼吸器　医学書院
2.　系統看護学講座　成人看護学[4]　血液・造血器　医学書院
3.　系統看護学講座　成人看護学[11]　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院</td></tr>
<tr><td>事前・
事後学習</td><td colspan="4">＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義内容・
方法</td><td colspan="3">講義内容</td><td>講義方法</td></tr>
<tr><td colspan="3">[呼吸機能障害の看護]
1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護
1）酸素化障害　2）換気障害
3）呼吸運動障害　4）生命・生活への影響
2. 検査・処置を受ける患者への看護
1）動脈血ガス分析　2）呼吸機能検査
3）気管支鏡検査　4）胸腔穿刺　5）肺生検
3. 治療を受ける患者への看護
1）酸素療法　2）非侵襲的陽圧換気
3）侵襲的陽圧換気　4）肺切除術
5）胸腔ドレナージ　6）吸入による薬物療法
7）薬物療法
4. 病期や機能障害に応じた看護
1）腫瘍（肺癌、中皮腫）　2）炎症性疾患（肺炎、気管支炎、胸膜炎）
3）慢性閉塞性肺疾患　4）気管支喘息

[生体防御機能障害の看護]
1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護
1）皮膚粘膜障害　2）免疫機能障害
3）骨髄機能障害　4）生命・生活への影響
2. 検査・処置を受ける患者への看護
1）スキンテスト　2）粘膜・皮膚生検　3）骨髄穿刺
3. 治療を受ける患者への看護
1）減感作療法　2）免疫抑制薬　3)抗悪性腫瘍薬
4）ステロイド療法　5）造血幹細胞移植
6）抗ヒト免疫不全ウイルス療法　7)放射線療法
4. 病期や機能障害に応じた看護
1）アレルギー性疾患　2）自己免疫性疾患
3）血液悪性疾患　4）抗ヒト免疫不全ウイルス感染症</td><td>講義　演習</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">筆記試験　100%</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意点</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

科目コード№61

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：成人看護学　成人看護援助論Ⅳ 消化吸収機能・栄養代謝機能・排尿機能障害・性生殖機能障害の看護	2年次・前期	1単位 30H(15 コマ)	八戸赤十字病院 看護師

学習目標	1.　各機能障害が生活に与える影響を理解する。 2.　各機能障害に行われる検査・処置・治療における看護を理解する。 3.　各機能障害の経過・症状に応じた看護を理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　成人看護学[5]　消化器　医学書院 2.　系統看護学講座　成人看護学[6]　内分泌・代謝　医学書院 3.　系統看護学講座　成人看護学[8]　腎・泌尿器　医学書院 4.　系統看護学講座　成人看護学[9]　女性生殖器　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	[消化吸収障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）咀嚼・嚥下障害　2）消化管機能障害　3）膵液分泌障害 4）胆汁分泌障害　5）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）上部消化管内視鏡　2）大腸内視鏡　3）内視鏡的逆行性膵管造影 4）消化管造影　5）造影 CT・MRI　6）直腸診 3. 治療を受ける患者への看護 1）咽頭・喉頭摘出術　2）食道切除術　3）胃切除術 4）大腸切除術　5）膵切除術　6）腹腔鏡視下手術 7）人工肛門造設術　8）手術後ドレナージ　9）胆道・胆嚢ドレナージ 10）経腸栄養法　11）経静脈栄養法 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）口腔・咽頭腫瘍（舌癌、咽頭癌、喉頭癌） 2）上部消化管腫瘍（食道癌・胃癌） 3）下部消化管腫瘍（大腸癌、結腸癌） 4）人工肛門造設後 5）炎症性疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病） 6）潰瘍性疾患（胃・十二指腸潰瘍） 7）胆石症　8）膵炎 [栄養代謝障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）肝機能障害　2）代謝機能障害　3）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）腹部超音波　2）肺生検　3）腹腔鏡 3. 治療を受ける患者への看護 1）肝庇護療法　2）インターフェロン　3）食道静脈瘤内視鏡治療 4）肝動脈塞栓術　5）肝切除術 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）肝炎　2）肝硬変　3）肝癌　4）高尿酸血症、脂質異常症、肥満 [排尿障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）畜尿・排尿障害　2）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護	講義　演習

科目コード№61

	1）尿流動態検査　2）残尿測定　3）膀胱鏡 3. 治療を受ける患者への看護 1）膀胱切除術　2）前立腺切除術　3）尿路変向術　4)ホルモン療法 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）腎・尿路結石　2）腫瘍(腎癌・膀胱癌)　3）前立腺肥大 [性生殖機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）性・生殖機能障害　2）ホルモン欠落症状 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）ヒトパピローマウイルス検査　2）腹部超音波検査・経膣超音波検査、 3）乳房超音波検査　4）マンモグラフィー 3. 治療を受ける患者への看護 1）勃起障害治療　2）性交障害治療　3）乳がん手術 4）女性生殖器手術　5）男性生殖器手術(前立腺癌・精巣腫瘍・陰茎癌) 6）ホルモン療法 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）女性生殖器の疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫) 2）男性生殖器疾患(前立腺炎、前立腺肥大) 3）腫瘍(乳癌、子宮体癌・子宮頸癌、卵巣癌、前立腺癌) 4）生殖機能障害(月経異常、更年期障害)	
評価方法	筆記試験　100%	
履修上の留意点		

科目コードNo.62

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：成人看護学　成人看護援助論Ⅴ 脳神経機能・運動機能・感覚機能障害の看護	2年次・後期	1単位 30H(15コマ)	八戸赤十字病院 看護師

学習目標	1.　各機能障害が生活に与える影響を理解する。 2.　各機能障害に行われる検査・処置・治療における看護を理解する。 3.　各機能障害の経過・症状に応じた看護を理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　成人看護学[7]　脳神経　医学書院 2.　系統看護学講座　成人看護学[10]　運動器　医学書院 3.　系統看護学講座　成人看護学[13]　眼　　医学書院 4.　系統看護学講座　成人看護学[14]　耳鼻咽喉　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・方法	[脳神経機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）生命維持活動調節機能障害　2）運動・感覚機能障害 3）言語機能障害　4）高次機能障害　5）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）脳波検査　2）髄液検査　3）脳血管造影 3. 治療を受ける患者への看護 1）開頭術　2）穿頭術　3）血管バイパス術　4）血管内治療 5）脳室ドレナージ術　6）脳室-腹腔シャント術　7）低体温療法 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）脳血管障害　2）脳腫瘍　3）感染症(脳炎、髄膜炎) 4）頭部外傷　5）重症筋無力症 7）ギランバレー症候群　8）筋萎縮性側索硬化症 [運動機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）姿勢機能障害　2）移動機能障害　3）作業機能障害 4）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）関節可動域検査　2）徒手筋力テスト　3）脊髄造影、椎間板造影 4）膝関節鏡　5）筋生検 3. 治療を受ける患者への看護 1）ギプス固定　2）牽引法　3）人工関節置換術 4. 病期や機能障害に応じた看護 1）関節リウマチ　2）椎間板ヘルニア　3）四肢切断 4）変形性関節症　5）骨折　6）脊髄損傷 [感覚機能障害の看護] 1. 原因の障害の程度のアセスメントと看護 1）視覚障害　2）聴覚障害　3）嗅覚障害　4）味覚障害 5）触覚障害　6）生命・生活への影響 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1）眼底検査　2）聴力検査　3）経鼻内視鏡検査　4）味覚検査 3. 治療を受ける患者への看護 1）眼底光凝固法　2）網膜剥離治療　3）眼内レンズ挿入術 4）鼓膜形成術　5）小線源治療	講義　演習

科目コード№62

	4. 病期や機能障害に応じた看護 1）中途視覚障害　2）突発性難聴　3）メニエール病 4）副鼻腔炎　5）末梢神経障害	
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の留意点		

専門分野　老年看護学

〈授業概要〉

高齢者は、加齢による健康状態・生活の変化に適応しながら様々な経験を重ね、知識や技能など統合された英知を有する存在である。その一方で、加齢変化、認知機能症状、疾患の後遺症などによる健康問題や生活困難、家族介護力の低下、困窮、虐待などの問題を抱えやすく、社会全体で取り組むべき課題も多い。

高齢者は、老いる過程の中でその生活スタイルや生き方、人間関係など多岐にわたる変化があり価値観も異なる。高齢者には、一人一人の歩み方・歴史があるため、多様な人生を洞察し、老いへの適応、生活・生き方の選択を支えるケアが求められる。

高齢者の健康レベルは、現役で就業中、寝たきり状態、看取りまで様々で、生活の場所も自宅・施設・病院などで多様である。高齢者の健康状態は、様々な要因が絡み合って維持されており、一部の変化が恒常性維持を困難にし、健康障害をきたしやすい。一人ひとりの高齢者を理解し、日常生活能力の維持・増進、疾病・障害の予防、回復への支援、その人らしい死にむけた支援、それぞれの時期に応じた個別的な看護の方法を学ぶ。

また、人生 100 年時代を生きる高齢者が、住み慣れた地域でその人らしく尊厳を保って生活し続けることができるよう、様々な社会資源の活用の仕方、個人の意思決定支援と家族に対する支援を学ぶ。

科目名	ねらい
老年看護学概論	多様で個別的な高齢者の看護を実践するために、高齢者の身体的・精神的・社会的側面、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉政策の概要、倫理的問題について学び、老年看護の役割・特徴を理解する。
高齢者の生活支援技術	高齢者のその人らしい自立・自律した生活を支援するために、残存機能を引き出しセルフケア能力の再獲得を促進し、二次障害を予防する援助技術を習得する。
高齢者の健康課題・障害	加齢変化・健康障害をもつ高齢者の個別的看護を実践するために、高齢者の生理的変化、高齢者に多い症候・疾患、治療について理解する。
老年看護の実践	高齢者に特有な疾患・症候に応じた看護を実践するために、疾患・症候、治療、経過に応じた援助、家族への支援について理解する。

科目コード№63

<table>
<tr><th colspan="2">授業科目</th><th>履修年次・学期</th><th>単位・時間</th><th>講師名</th></tr>
<tr><td colspan="2">専門分野：老年看護学
老年看護学概論</td><td>1年次・後期</td><td>1単位
30H（15 コマ）</td><td>小笠原　みや子</td></tr>
<tr><td>学習目標</td><td colspan="4">1.　老年看護学の役割・特徴を理解する。
2.　老年期にある人々の身体的、心理・精神的、社会的側面の特徴を理解する。
3.　人口の高齢化の現状と問題、高齢者に関わる保健・医療・福祉政策の概要を理解する。
4.　老年期の人々が生活する中で体験する倫理的な問題について理解する。</td></tr>
<tr><td>テキスト・
参考文献</td><td colspan="4">1.　系統看護学講座　老年看護学　医学書院
2.　国民衛生の動向　2020-2021 厚生統計協会</td></tr>
<tr><td>事前・
事後学習</td><td colspan="4">＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義内容・
方法</td><td colspan="3">講義内容</td><td>講義方法</td></tr>
<tr><td colspan="3">1. 老年期の理解
1）ライフサイクルにおける老年期の意義、定義　2）加齢と老化
3）生活の変化　4）老年期の成長と発達　5）高齢者の多様性

2. 加齢変化とアセスメント
1）身体機能の変化と生活への影響　2）心理・精神機能の変化と生活への影響　3）社会的変化と生活への影響

3. 高齢者を取り巻く保健医療福祉制度
1）超高齢社会の現状　2）高齢者の健康状態　3）高齢者の暮らし
4）高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度

4. 高齢者と家族
1）家族の健康と生活　2）家族への援助

5. 高齢者の権利擁護と倫理的課題
1）ノーマライゼーション、自立支援　2）高齢者差別・高齢者虐待
3）安全管理と身体拘束　4）意思決定への支援

6. 老年看護の基本
1）老年看護の役割・特徴　2)老年看護の理論
3）エンドオブライフケア

7. 生活・療養の場における看護
1）ヘルスプロモーション　2）施設における看護
3）多職種連携実践活動

8. 高齢者のリスクマネジメント
1）高齢者と医療安全　2）高齢者と救命救急　3）高齢者と災害</td><td>講義

高齢者インタビュー

高齢者体験</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>履修上の
留意点</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

科目コード№64

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：老年看護学 高齢者の生活支援技術	2年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	立花　智子

学習目標	1.　老年看護技術の特徴を理解する。 2.　高齢者がその人らしい生活を送るために必要な看護の方法を理解する。 3.　高齢者の日常生活援助技術を習得する
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　老年看護学　医学書院 2.　系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 高齢者のヘルスアセスメント 1）生活史・環境 2）身体的健康、心理的・社会的健康 3）生活の自立状態 2. 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 1）高齢者のフィジカルアセスメント　2）総合機能評価＜CGA＞ 3）日常生活動作評価（バーサルインデックス、FIM、ADL・IADL） 4）障害高齢者の日常生活自立度判定基準・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 5）国際生活機能分類 3. 高齢者の生活を支える看護 1）基本動作と環境のアセスメント（歩行障害、移動障害） 2）転倒のアセスメントと看護 3）廃用症候群のアセスメントと看護 4）コミュニケーション能力のアセスメントと看護（難聴、視力障害） 5）日常生活援助 （1）食生活（摂食嚥下障害、タンパク質・エネルギー低栄養状態、サルコペニア、肥満） （2）排泄（排尿障害、排便障害） （3）清潔（皮膚障害、清潔セルフケア障害、更衣障害） （4）生活リズム（睡眠障害、生活リズム障害） 6）セクシュアリティのアセスメントと看護 7）社会参加のアセスメントと看護	講義 演習 DVD

評価方法	筆記試験　100％
履修上の留意点	

科目コード№65

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：老年看護学 高齢者の健康課題・障害と治療	2年次・前期	1単位 15H(7コマ)	松橋　昭夫

学習目標	1.　高齢者医療の現状と課題を理解する。 2.　高齢者に多い健康症候・病態・疾患と治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論　医学書院 2.　系統看護学講座　老年看護学　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 高齢者医療の特性と課題 1）地域・在宅医療　2）急性期医療　3）慢性期医療 4）人生の最終段階における医療　5）高齢者医療の目標設定 6）老年看護への期待 2. 高齢者の生理的特徴と病態変化 1）感覚機能の老化　2）呼吸・循環機能の老化 3）消化・吸収・代謝機能の老化　4）排泄機能の老化 5）免疫機能の老化　6）運動機能の老化 3. 高齢者に多い症候・病態と要因 1）老年症候群の特徴 2）急性疾患に付随する症状（せん妄、熱中症、脱水、発熱） 3）慢性疾患に付随する症状（るい痩、低栄養、浮腫、睡眠障害） 4）ADL低下に合併する徴候（排尿障害、便秘） 5）フレイル、サルコペニア 4. 高齢者に特有の疾患・治療の特徴 1）認知症　2）パーキンソン病　3 ）骨粗鬆症・骨折 4）高齢者糖尿病　5）うつ状態(うつ病) 6）高齢者肺炎　7）高齢者結核　8）皮膚掻痒症 9）薬剤性腎障害　10）尿路感染症 11)感染症(MRSA、レジオネラ症、インフルエンザ、ノロウイルス感染症、カンジタ症)	講義　演習

評価方法	筆記試験 100%
履修上の留意点	

科目コード№66

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：老年看護学 老年看護の実践	2年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	関川　順子 宮崎　崇　石井喜久子

学習目標	1.　高齢者に特有な症候・疾患の看護を理解する。 2.　治療を受ける高齢者の看護を理解する。 3.　経過に応じた高齢者の看護を理解する。 4.　治療・介護を要する高齢者の家族への看護を理解する。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　老年看護学　医学書院 2.　系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1.高齢者に特有な症候・疾患の看護 1）せん妄　2）脱水　3）皮膚疾患・スキンテア 4）パーキンソン病　5）骨折（腰椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折） 6）骨粗鬆症　7）認知症 2. 治療を必要とする高齢者の看護 1）検査を受ける高齢者の看護 2）薬物療法を受ける高齢者の看護 3）手術を受ける高齢者の看護 4）入院治療を受ける高齢者の看護 5）退院調整・退院支援 3. 経過に応じた高齢者の看護 1）急性期（周手術期） 2）回復期（リハビリテーション期） 3）末期段階 4. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 1）家族の健康と生活（家族の形態と機能の変化、介護状況） 2）家族への援助（家族のアセスメント、介護家族への援助） 5. 看護過程（演習） 1）リハビリテーション期 2）認知症	講義 演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の留意点	

専門分野　小児看護学

〈授業概要〉

小児看護の対象は出生時から青年期までと幅広く、身体的・精神的・社会的に極めて変化に富み、多様である。子どもの健康・成長発達は、家族をはじめ、社会の情勢・環境の影響を大きく受ける。その影響は人格形成だけでなく、小児の生活習慣病、心身症、児童虐待などの問題に及ぶ。

子どもは個々に力を備え、権利を有した一人の人格をもった存在である。子ども及び家族との適切な援助関係を形成し、子どもの健やかな成長発達を促進できるよう支援することが看護の基本である。また小児看護は、一人ひとりの子どもの健康・生活、未来を守る役割を持つ。よって、小児を取り巻く今後の課題について展望していく科目でもある。

小児看護学では、あらゆる健康レベル、療養の場における小児と家族への看護を学ぶ。小児各期の対象の特徴と小児と家族を取り巻く環境を理解し、成長発達・健康増進のための援助について学ぶ。また、小児特有の疾患と治療・処置に伴う看護の方法や小児特有の看護技術を安全に実施する方法を学ぶ。

科目名	ねらい
小児看護学概論	あらゆる健康レベルの子どもとその家族が自らの力で健康を維持し、成長発達していく支援をするために、小児各期にある対象の特徴と小児と家族を取り巻く環境、小児看護の特徴・役割について理解する。
小児の生活支援技術	発達段階に応じた世話と健康増進に向けた看護を実践するために、小児各期の成長・発達段階と健康問題を理解し、日常生活援助の知識と技術を習得する。
小児の健康課題・障害と治療	小児の疾患は種類が多いが、気づきにくく、判別も困難で発症や進行が急である。小児特有の疾患・病態・治療・検査について理解する。
小児看護の実践	健康課題・障害をもつ子どもとその家族に安全で安楽な看護を実践するために、小児特有の健康課題・障害、治療・処置、経過・症状に応じた看護の技術を習得する。

科目コード№67

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：小児看護学 小児看護学概論	1年次・後期	1単位 30H（15 コマ）	後藤　郁奈子

学習目標	1.　小児期にある対象の特徴を理解する。 2.　わが国の小児をとりまく社会システムを理解する。 3.　小児看護の役割、用いられる理論について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版 2.　国民衛生の動向　厚生統計協会 ＜参考文献＞ 1.　筒井真由美編：小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　日総研
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 小児を取り巻く環境 1）小児とは 2）家族とは 3）小児を取り巻く社会 2. 小児看護の特徴 1）小児看護の対象と目的 2）小児看護の場と役割 3）小児看護の課題と展望 3. 子どもの最善の利益にかなう医療・看護 1）看護と自己決定権尊重の原則 2）子どもの権利条約と子どもの主体性の確立および医療と子どもの権利 (1)インフォームドアセント (2)アドボカシー（権利擁護） 3）子ども虐待防止と看護 4.　小児を取り巻く医療の変遷 1）小児医療の変遷 2）小児看護の変遷 3）小児医療・小児看護の課題 5.　母子保健の動向と小児統計 1）母子保健 2）小児の保健統計 6.　小児看護の場と看護の特徴 1）小児の健康と保健・医療・福祉・教育の現状 2）母子保健の場（子育て支援等）と看護 3）小児医療の場と看護 4）福祉の場と看護 5）教育の場と看護 6）障害のある子どもの保健と支援	講義 グループ ワーク 施設見学

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コード№68

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：小児看護学 小児の生活支援技術	2年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	後藤　郁奈子

学習目標	1.　小児各期の成長・発達の特徴を理解する。 2.　小児児各期の発達段階に応じた日常生活を支援するために必要な看護を理解する。 3.　健康問題を持つ小児の発達段階に応じた看護を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版 2.　ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版 ＜参考文献＞ 1.　写真でわかる小児看護技術 インターメディカ
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 小児各期の成長と発達 1）成長・発達の原則と影響因子 2）形態的成長 3）機能的発達 4）精神運動機能の発達 5）心理・社会的発達 （認知、情緒、社会性、コミュニケーション能力、遊びと学習、発達課題） 6）性と発達 7）発育・発達評価と環境アセスメント （ヘルスアセスメント、身体発育の評価、精神運動機能の評価、療育環境） 2. 小児各期の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護 1）健康な生活：食事、睡眠、清潔、排泄、活動 2）健康問題 3）発達に応じた健康増進と安全な環境 （1）新生児の成長・発達と看護（授乳と栄養、感染予防、事故防止親子関係、母子保健サービスの活用を含む） （2）乳児の成長・発達と看護（離乳と栄養、運動と遊び、予防接種、感染予防、アタッチメント、分離不安、事故防止と安全対策を含む） （3）幼児の成長・発達と看護（基本的生活習慣の確立、自我の発達と遊び、家族関係と社会化、食育） （4）学童の成長・発達と看護（学校保健、予防接種法、セルフケアと保健教育、学校への適応、学習と遊び、生活習慣病の予防、第二次性徴、学童の情緒と仲間や家族との関係、学童をとりまく社会環境、学童の問題行動と対応を含む） （5）思春期の成長・発達と看護（親からの自立、異性への関心、情緒的変化と家族、小児の性意識の変化と逸脱行動、小児の問題行動と対応） 3. 小児の日常生活の援助技術（演習） 1）食事（授乳、調乳、離乳食）　2）排泄（オムツ交換） 3）身体計測（身長・体重・頭囲・胸囲）　4）小児のバイタルイン測定	講義　演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コード№69

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：小児看護学 小児の健康課題・障害と治療	2年次・前期	1単位 15H（7コマ）	佐藤　都留雄

学習目標	1.　小児に特有な疾患・障害の特徴・治療について理解する。	
テキスト・参考文献	1.　ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護（メディカ出版）	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1.　遺伝子・染色体の異常と形態異常 2.　新生児の特徴と疾患 3.　消化器疾患 4.　呼吸器疾患 5.　循環器疾患 6.　アレルギー性疾患 7.　血液疾患・小児がん 8.　神経・筋疾患 9.　内分泌・代謝疾患 10.　腎尿路疾患 11.　骨・関節疾患（二分脊椎、先天性股関節脱臼、ペルテス病） 12.　感染症 13.　免疫疾患・膠原病 14.　皮膚疾患 15.　腫瘍疾患（神経芽腫、ウィルムス腫瘍、脳腫瘍）	講義
評価方法	筆記試験　100％	
履修上の留意点		

科目コードNo.70

授業科目		履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：小児看護学 小児看護の実践		2年次・後期	1単位 30H（15コマ）	八戸赤十字病院 看護師
学習目標	1. 健康課題・障害および入院が、小児と家族に及ぼす影響と看護について理解する。 2. 健康課題・障害および治療過程における看護について理解する。 3. 小児にみられる主な症状と看護について理解する。 4. 基本となる小児看護技術を習得する。 5. 小児期にある対象を総合的にアセスメントし、対象に必要な看護計画が立案できる。			
テキスト・参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 2. ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ＜参考文献＞ 1. ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版			
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。			
講義内容・方法	講義内容			講義方法
	1. 健康課題・障害および入院が小児と家族に及ぼす影響と看護 1） 健康課題・障害および入院による小児への影響 2） 健康課題・障害をもつ小児への支援 3） 小児の健康課題・障害および入院による家族への影響と支援 2. 健康課題・障害および治療過程における小児とその家族への看護 1） 急性期 2） 慢性期 3） 終末期 4） 治療処置・検査を受ける小児 5） 手術を受ける小児 6） 外来における小児 7） 在宅における小児 8） 災害を受けた小児 9） 救急処置を受ける小児 10）先天来的な健康課題・障害をもつ小児 11）活動制限が必要な小児 12）感染対策上隔離が必要な小児 3. 小児にみられる主な症状のアセスメントと看護 1） 発熱　2） 脱水　3） 痙攣 4） 呼吸困難　5） 痛み 4. 基本となる小児看護技術（演習） 1） 診察及び治療処置に伴う技術 （採血、点滴、吸引、酸素療法、経管栄養、与薬） 5. 事例による看護過程の展開 1） 情報収集と整理 2） アセスメントのポイント 3） 看護過程の展開（演習）			講義 演習 演習
評価方法	筆記試験 100％			
履修上の留意点				

専門分野　母性看護学

〈授業概要〉

母性看護の対象は、女性のライフサイクルすべてにわたる。女性がライフサイクル各期の健康課題を達成し、生涯を通じて健康で充実した日々を過ごすこと（ウィメンズヘルス）を支援することが看護の基本的考え方である。現代社会において、家族の多様化、女性の社会進出、少子化、児童虐待・DV、不妊治療、若年妊娠、性の多様性・ジェンダーギャップなど、性・生殖における問題や課題は多岐にわたっている。

母性看護学では、思春期から老年期まで身体が変化し、特有の健康問題をもつ女性の健康の維持・増進のためのセルフケア・自己決定への支援を学ぶ。また、多くの女性が妊娠・出産・育児にわたる女性のマタニティサイクルを経験する。母性の本質は生命の創造と育成であり、生命の尊重、生命誕生のすばらしさを知ることが大切であるため、正常な経過をたどる周産期看護について学ぶ。多くの周産期の対象は自然な経過をたどることが多いが、近年はハイリスク妊産婦（合併症・高齢出産）も多い。そこで、周産期における異常に対応する看護についても学ぶ。

母性看護の対象である母子が共に健全に成長し、育っていくためには社会的支援が必要である。そのための母子保健施策についても理解する必要がある。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）について学び、高度生殖医療、人工授精、出生前診断など倫理・権利についても考える。

科目名	ねらい
母性看護学概論	女性の生涯を通じて健康で充実した日々を支援するために、女性を取り巻く社会環境、ライフサイクルに伴う変化、それらを踏まえた看護を理解する。また、母子保健の動向、母子保健施策について理解する。
女性の健康課題・障害と治療	マタニティサイクルに異常をもった母子に看護を実践するために、妊娠・分娩・産褥各期に生じる異常、検査、治療、処置を理解する。
周産期看護の実践Ⅰ 妊娠・分娩期の看護	妊娠・分娩期の適切な看護を実践するために、正常な経過と妊婦・家族への支援を理解する。また、妊娠・分娩期に生じる健康問題に対する看護を理解する。
周産期看護の実践Ⅱ 新生児期・産褥期の看護	産褥期における褥婦と新生児に適切な看護を実践するために、正常な経過と新生児の特徴を理解する。また、産褥期・新生児の健康問題に対する看護を理解する。

科目コード№71

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：母性看護学 母性看護学概論	1年次・後期	1単位・ 30H（15コマ）	坂本　保子

学習目標	1.　母性看護学の概要をふまえ、母性の特徴を理解する。 2.　わが国の母性をとりまく社会環境を理解する。 3.　女性のライフサイクルに応じた看護の目標と役割について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護 　　メヂカルフレンド社 2.　国民衛生の動向　厚生統計協会
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 母性看護学の概念 1）母性・父性、母性看護の概念　2）リプロダクティブ・ヘルツ／ライツ 3）家族の発達・機能 2. 母子の健康生活と法律・制度 1）母子保健の統計指標 2）女性のリプロダクティブ・ヘルツに関わる社会的要因 3）母子保健法　4）子育て支援施策　5）母子保健の関係法規 6）女性の就労の関係法規　7）外国人妊産婦と家族の支援 8）災害時の妊産婦と家族の支援 3. 母性看護と倫理 1）対象の権利と擁護　2）自己決定の尊重　3）プライバシーの保護 4）人間の性と生殖や医療における倫理　5）出生前診断 4. 性の概念 1）性的健康の概念　2）セクシャリティー 3）ヒトの発生・性的分化のメカニズム 5. 性と生殖のメカニズム 1）性周期　2）性行動・性反応　3）受胎のメカニズム 6. 思春期女性の健康課題に対する看護 1）第二次性徴　2）性意識・性行動の発達　3）月経異常 4）性感染症（STD） 7. 成熟期女性の健康課題に対する看護 1）家族計画　2）不妊症・不育症　3）女性生殖器の疾患 4）性暴力、DV（ドメスティック・バイオレンス） 8. 更年期女性の健康課題に対する看護 1）ホルモンの変化と閉経　2）更年期障害 9. 老年期女性の健康課題に対する看護 1）骨盤臓器脱　2）萎縮性膣炎、外陰炎　3）尿失禁	講義

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コードNo.72

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：母性看護学 女性の健康課題・障害と治療	2年次・前期	1単位 15H（7コマ）	武者　晃永

学習目標	1.　妊娠期・分娩期・産褥期における身体的特徴および健康課題・障害について理解する。 2.　新生児期における身体的特徴および健康課題・障害について理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 妊娠期の身体的特徴 2. 妊娠期の健康課題・障害 1）流産、早産 2）感染症 3）常位胎盤早期剥離 4）前置胎盤 5）妊娠高血圧症候群 6）妊娠糖尿病 3. 分娩期の身体的特徴 4. 分娩期の健康課題・障害 1）前期破水 2）帝王切開術 3）産科出血 4）胎盤機能不全 5. 産褥期の身体的特徴 6. 産褥期の健康課題・障害 1）肺塞栓 2）子宮復古不全 3）産褥熱 4）乳腺炎 5）産後うつ 6）帝王切開術後 7）死産、流産 7. 新生児期の身体的特徴 8. 新生児期の健康課題・障害 1）新生児の健康逸脱 2）早産児、低出生体重児 3）先天異常、障害を持つ新生児	講義

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コードNo.73

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：母性看護学 周産期看護の実践Ⅰ　妊娠・分娩期の看護	2年次・前期	1単位 30H(15コマ)	

学習目標	1. 妊娠期・分娩期における特徴および健康課題・障害をふまえ、母子、夫、家族に対して必要な看護を理解する。	
テキスト・参考文献	1. 新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社	
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。	
講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 妊娠期における特徴の理解と看護 1） 妊娠の受容と看護 2） 妊婦の健康診査 3） 妊婦への看護 保健指導：妊婦・胎児の環境、日常生活の過ごし方、乳房の手入れ、栄養、出産準備、異常の早期発見 4） 分娩の計画と準備 2. 妊娠期における健康課題・障害と看護 1） ハイリスク妊婦・胎児への看護 2） 健康課題・障害のみられる妊婦・胎児の看護 妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・子癇・切迫流産・子宮外妊娠・多胎妊婦・胞状奇胎・羊水過多症・胎児の発育異常・過期妊娠・合併症を持つ妊婦の看護 3. 分娩期における特徴の理解と看護 1） 産婦への看護 2） 周産期の母子相互作用 4. 分娩期における健康課題・障害と看護 1） 健康課題・障害のみられる産婦の看護 陣痛の異常・骨盤位分娩・吸引分娩および鉗子分娩・会陰切開・手術による分娩・障害のある児の出産、流産・死産時の看護 5. 妊娠・分娩期における夫・家族への支援 6. 妊娠期における保健指導（演習）	講義 演習
評価方法	筆記試験　100％	
履修上の留意点		

科目コード№74

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：母性看護学 周産期看護の実践Ⅱ　産褥期・新生児期の看護	2年次・後期	1単位 30H（15コマ）	木村　ともこ

学習目標	1.　産褥期における特徴および健康課題・障害をふまえ、母子、夫、家族に対して必要な看護を理解する。 2.　新生児期における特徴および健康課題・障害をふまえ、母子、夫、家族に対して必要な看護を理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護　メヂカルフレンド社 ＜参考文献＞ 1.　ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児の疾患と看護　メディカ出版
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 褥婦への看護と保健指導 1）褥婦に対する看護ケアを考える上で必要な基礎知識 2）褥婦の状態のアセスメント 3）褥婦に対する看護ケア 保健指導：進行性変化・退行性変化の促進、痛みや不快感の緩和、安全安楽の促進、親役割の獲得、母児関係の促進、セルフケア能力の促進 2. 健康課題・障害のみられる褥婦の看護 1）感染症のある褥婦 2）子宮復古不全 3）乳房の異常 4）産後うつ 5）帝王切開術後 6）死産、障害をもつ新生児を出産した親 3. 新生児の看護 1）出生直後から生後 24 時間以内の看護 2）生後 24 時間以降の看護 3）新生児の生理 4）新生児の栄養 4. 健康課題・障害のみられる新生児の看護 1）新生児の健康逸脱（高ビリルビン血症、感染症、MAS） 2）早産児、低出生体重児出生時の看護（新生児仮死、RDS、TTN） 3）先天異常、障害を持つ新生児の看護 5. 産褥期・新生児期における夫・家族への支援 6. 看護の実際（演習） 1）沐浴、オムツ交換、抱っこの仕方 2）事例展開：正常褥婦の看護	講義　演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の留意点	

専門分野　精神看護学

〈授業概要〉

人間は人生の中で様々な危機に直面しながら生きており、危機を上手く乗り越えながら成長していく。現代社会はストレスに満ちており、虐待、いじめ、引きこもり、自殺、抑うつ、依存症などメンタルヘルス上の問題を抱える人が増加している。このようなメンタルヘルスの問題は誰にでも起こり得る身近な問題であり、ケアを必要とする人は精神疾患を持つ人に限定されるものではない。

精神看護学では心のしくみとはたらきを理解し、メンタルヘルスの維持増進を目指すことを学ぶ。また、精神疾患は主な死因とはならないものの、健康寿命を損なう疾患であり精神疾患患者数も多く発生していることから 5 大疾病として国の医療政策の対象とされた。精神疾患を持った人が自ら思考・判断・行動することでその人らしさを取り戻しその人の望む生活を支えることが精神看護の中心であるため、その点について重点的に学ぶ。

精神医療を取りまく社会的環境は、入院医療主体から地域を拠点とした地域生活支援へと変化して久しい。地域包括ケア推進される中では、これまでより一層地域の中で障害とともに生活できるような社会全体の仕組みが求められるため、権利擁護、精神保健医療福祉の動向・制度と課題についても学びを深める。

科目名	ねらい
精神看護学概論	精神の健康を支え、支援できる看護者となるために、人間の心のしくみと働きについて理解し、人間の成長発達過程やメンタルヘルスの諸問題と危機に対応する知識を身に付ける。
心の健康課題・障害と治療	精神に疾患をもった対象を看護するために、精神疾患の特徴や症状、診断、治療法について理解し、安全・安楽・個別的な看護を実践する知識を身に付ける。
精神看護の基本技術	精神に障害のある対象と治療的かかわりを形成するために、対象の特性を理解し、権利と主体性を尊重した対人関係技術を習得する。
精神看護の実践	対象の障害に応じた個別的看護を実践するために、疾患、症状、治療に応じた看護の方法を理解し、精神看護の基本的知識・技術を習得する。また、早期社会復帰ができるための社会資源活用の知識を身に付ける。

科目コード№.75

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：精神看護学 精神看護学概論	2年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	小野寺　健治

学習目標	1.　精神看護の目標と役割について理解する。 2.　人間の心の仕組みや働きについて理解する。 3.　精神医療の歴史および精神保健福祉制度について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論・精神保健　メヂカルフレンド社
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 精神看護学の考え方 1）精神疾患および精神障害の現状 2）心の健康・不健康、心の病気の考え方（ストレス脆弱説） 3）精神看護学における看護師の役割 2. 精神の捉え方 1）脳の構造と機能 2）精神（心）の発達（自我の構造・防衛機制） 3）心の発達における危機 （胎児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、壮年期、老年期） 3. 社会環境の変化と社会病理および対策 （いじめ・自殺・暴力・PTSD 等） 4. 危機状況とストレスコーピング 1）危機の状況と危機介入 2）ストレスとコーピング 5. 災害時の精神保健医療福祉活動 1）災害者の心理 2）被災者の心理 3）災害時の初期対応 4）活動の継続 6. 精神医療の歴史とわが国の精神保健福祉制度 1）精神医療の歴史 2）精神保健福祉制度の変遷 3）精神保健福祉活動	講義　演習

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

科目コード№76

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野:精神看護学 心の健康課題・障害と治療	2年次・後期	1単位 15H(7コマ)	水谷　歩未

学習目標	1.　心の健康課題・障害と治療について理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 精神に障害を持つ人が抱える症状 1）精神症状 2）中枢神経症状 2. 精神障害の診断と検査の種類 1）診断の基礎と要点 2）検査の種類 3. 主な精神障害の診療 1）各種治療法 (1)薬物療法 (2)電気痙攣療法 (3)社会復帰療法 (4)精神療法 2）主な疾患の診療 (1) 症状性を含む器質性精神障害 (2) 精神作用物質使用による精神・行動の障害 (3) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 (4) 気分＜感情＞障害 (5) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 (6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (7) パーソナリティ障害 (8) 習慣および衝動の障害 (9) 性同一性障害 (10)知的障害＜精神遅滞＞ (11)心理的発達の障害 (12)小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№77

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：精神看護学 精神看護の基本技術	2年次・後期	1単位 15H(7コマ)	田中　陽子

学習目標	1.　入院している精神に障害を持つ人への看護援助展開に必要な基礎知識について理解する。 2.　精神に障害を持つ人やその家族を理解する為に必要な考え方や接触の方法を理解する。
テキスト・参考文献	1.　新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法

講義内容	講義方法
1. 精神に障害をもつ人の理解と援助の基本 1）精神障害者の理解と考え方 2）患者の権利擁護と法制度 3）精神科における医療安全と治療的環境 4）患者ー看護師関係の理解、接触の技術 （コミュニケーションの方法・転移・逆転移） 5）自己理解（プロセスレコードの活用） 6）医療者のメンタルヘルス （看護における感情労働・自殺や暴力など緊急事態への対処） 7）リエゾン看護の役割 2. 入院治療における看護援助 1）対象の観察とアセスメント 2）患者のセルフケア能力をアセスメントする視点（オレムの看護理論） 3）患者を主体とした看護（リカバリー・ストレングス・エンパワーメント） 4）患者家族の特徴と看護 3. 看護過程の展開 症例：統合失調症	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№78

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：精神看護学 精神看護の実践	2年次・後期	1単位・ 30H（15 コマ）	

学習目標	1.　主な症状に対する看護について理解する。 2.　主な治療に伴う看護について理解する。 3.　精神に障害をもつ人の各疾患および各回復過程の看護について理解する。 4.　精神科リハビリテーションについて理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　新体系看護学全書　精神看護学②　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 主な症状に対する看護 1）精神症状と看護 2）神経症状と看護 3）認知症の状態にある患者の看護 2. 主な治療に伴う看護 1）薬物療法に伴う看護（有害反応と服薬おの援助） 2）電気痙攣療法を受ける患者の看護 3）精神療法を受ける患者の看護 4）社会療法を受ける患者への看護 3. 精神に障害を持つ人の看護 1）統合失調症患者の看護（急性期・回復期・慢性期） 2）双極性障害患者の看護 3）心因性精神病と神経症患者の看護 4）人格障害の看護 5）アルコール・薬物依存患者の看護（急性期・リハビリテーション期） 6）てんかん患者の看護 7）自閉症スペクトラム症患者の看護 8）神経性食欲不振症患者の看護 4. 精神に障害を持つ人の地域包括ケアマネジメント 1）精神保健医療福祉におけるチーム 2）地域資源の活用と看護師の役割（退院前訪問看護）	講義

評価方法	筆記試験　100％
履修上の 留意点	

統合分野　看護の統合と実践

〈授業概要〉

看護の統合と実践では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習してきた内容を、より臨床実践に近いかたちで学習し、知識・技術・態度を統合させていく。また、各看護学で学んだ内容を基盤に、臨床及び臨床以外の場面でも実際に活用する知識・技術を実践的に学ぶ。

組織における看護師の役割を理解するとともに専門職の自覚をもち、チーム医療および多職種との協働における看護師としてのリーダーシップ及びメンバーシップを発揮するための知識を習得する必要がある。また、複雑な医療環境下における看護遂行のマネジメント力を身に付け、より安全に専門性の高い職務を全うするために医療安全の知識を学ぶことは重要である。

災害看護では、近年増加する様々な災害発生時に、適確な看護が提供できるよう、災害における看護の役割と援助の基礎的知識を学ぶ。

グローバル社会において、国際協力の必要性は高まっており、諸外国の保健・医療・福祉の現状と課題、医療・看護の国際協力活動の在り方と看護活動の実際を学ぶ。さらに、日本で暮らす外国人の多様な文化を尊重した看護について学ぶ。

臨床実践においては、対象を総合的に捉え科学的根拠に基づいた援助を提供できる知識と判断力が必要である。対象者を目の前にしたときの看護を、時間的制約や多重課題の中で正確に適切に実践できる能力を身につける。

科目名	ねらい
看護管理と医療安全	組織の一員として看護師の役割を果たすために、医療現場における組織体制や管理の在り方を理解し、看護をマネジメントする基礎的知識を身に付ける。また、安全な看護を提供するために、医療事故の構造と対策、管理体制を理解し、事故防止のための基礎的知識を身に付ける。
災害看護	頻発する災害発生時に看護の役割を果たすため、想定される災害時の状況や対象の特徴を理解し、看護職として活動できるよう災害各期の看護活動についての知識・技術を習得する。
国際看護	国際化の進む中、医療・看護は国際的協力の下、人々の健康の維持・増進、健康問題に尽力していかなければならない。そのため、諸外国の保健・医療・福祉の現状と課題、国際協力の実際を知り、看護における国際協力の役割と重要性を認識する。
臨床判断実践	既習の学習内容をもとに、的確に対象を捉え、根拠に基づき迅速に判断し、対象に応じた看護を実践できるために、臨床現場で看護師が行う臨床判断プロセスを理解し、総合的実践力を習得する。

科目コード№79

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：看護の統合と実践 看護管理と医療安全	3年次・前期	1単位 30H（15コマ）	

学習目標	1.　医療現場における組織体制及び組織における看護師の役割を理解する。 2.　看護管理における業務の管理、人材育成の考え方を理解する。 3.　医療事故の構造を理解し、安全な医療を提供するための知識と方法を理解する。 4.　発生しやすい事故と安全管理について理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント・医療安全 メジカルフレンド社
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	[看護管理] 1. 看護管理の概念 1）看護管理の定義　2）看護管理の目的と方法　3）看護管理システム 2. 病院における看護組織と責務 1）病院の組織　2）看護部門の組織と看護職員の管理 3）医療・看護サービスの評価　4）院内委員会と看護の役割 5）看護におけるチームワーク　6）組織における感染予防 7）情報管理 3. 多職種連携と看護の役割 1）チーム医療の実際　2）多職種連携 3）クリニカルパスの役割　4）多職種カンファレンス 5）地域連携パス　6）地域包括ケアシステム 4. 業務管理 1）物品、薬品管理　2）時間管理　3）多重課題 5. 人材育成・活用 1）看護制度の変遷　2）継続教育 3）認定看護師・専門看護師・特定行為研修制度 4）看護師等の確保、就業継続、看護師等の届出制度 5）看護職員の労働安全衛生 6. 看護制度、看護行政 1）看護制度の変遷　2）看護行政の組織 〔医療安全〕 1. 医療安全を学ぶ重要性 2. 事故防止の考え方 1）医療事故と看護業務　2）看護事故の構造 3）看護事故防止の考え方 3. 診療の補助業務に伴う事故防止 4. 療養上の世話における事故防止 5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 1）業務領域をこえて共通する患者間違い　2）情報の管理 3）間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4）新人特有の危険な思い込みと行動パターン 6. 安全管理（セーフティマネジメント） 1）誤薬の起こりやすい状況と対策 2）転倒・転落の起こりやすい状況と対策	講義　演習

科目コード№79

	3）チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 4）針刺し事故の起こりやすい状況と対策　5）KYTトレーニング（演習） 7. 医療事故の分析（演習） 8. 看護師と法的責任 1）医療事故の法的責任　2）医療事故と看護師の法的責任 9. 組織的な安全管理体制整備 1）組織としての医療安全対策　2）国の医療安全対策	
評価方法	筆記試験 100%	
履修上の留意点		

科目コード№80

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：看護の統合と実践 災害看護	3年次・後期	1単位 30H(15 コマ)	

学習目標	1.　危機的状況にある患者・家族への対応を考えることができる。 2.　災害医療・災害看護の概念を理解する。 3.　災害時の看護師の役割を理解し、災害各期における看護活動の方法を理解する。 4.　災害時の応急処置の実際を理解する。
テキスト・ 参考文献	1.　系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践(3)災害看護学・国際看護学　医学書院
事前・ 事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

	講義内容	講義方法
講義内容・ 方法	1. 災害医療・災害看護の概念 1）災害の歴史と災害医療 2）災害時の支援体制と医療体制 3）災害と法制度 4）災害看護の定義と役割 5）災害の種類別の被害の特徴 6）災害種類別の疾患の特徴 クラッシュ症候群・肺塞栓症・感染症・気道熱傷・生活不活発病・ 食中毒 7）被災者および援助者の心理(心理回復プロセス・PTSR／PTSD) 2. 災害時の体系的なアプローチ(CSCATTT) 3. 災害各期の特徴と看護活動 1）(超)急性期 2）慢性期 3）復興期 4）静穏期 4. 対象別の災害看護 1）小児・妊産婦・高齢者・身体障害者・精神障害者・在留外国人 2）地域・集団 5. 災害時の応急処置の実際(演習) 1）災害時に必要な技術 (1)トリアージの実際　(2)搬送　(3)応急処置 (4)CPR(心肺蘇生法)とAED　(5)創傷処置 2）心のケア 6. 平時からの備え 1）防災訓練 2）防災教育 3）災害総合訓練	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の 留意点	

科目コード№81

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：看護の統合と実践 国際看護	3年次・後期	1単位 15H(7コマ)	久保　宣子

学習目標	1.　国際看護の主要概念を学び、諸外国の保健医療の現状と人々の健康について理解する。 2.　看護の国際協力の実際と課題を、事例を通して学び、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の役割について考える。
テキスト・参考文献	1.　系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践(3)災害看護・国際看護　医学書院
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. 看護のグローバル化 2. 世界の主要な健康問題と格差 3. 国際看護の定義と看護の対象 4. グルーバルヘルス 1）インターナショナルヘルスからグローバルヘルスへ 2）プライマリヘルスケア(PHC)とヘルスプロモーション(HP) 3）人間の安全保障 4）ミレニアム開発目標(MDGs) 5）持続可能な開発目標(SDGs) 6）ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC) 5. 国際協力のしくみと国際社会の共通課題 6. 国際協力活動と看護 1）国際機関の役割 2）政府開発援助(ODA)の開発途上国への援助 3）看護の役割 7. 開発途上国の健康問題の構造と看護 8. 多様な文化を考慮した看護 1）文化を考慮した看護理論 2）看護の実践 9. 海外の看護制度 10.事例で考える国際看護の展開(GW)	講義　演習

評価方法	筆記試験　100%
履修上の留意点	

科目コード№82

授業科目	履修年次・学期	単位・時間	講師名
専門分野：看護の統合と実践 臨床判断実践	3年次・前期	1単位 30H（15 コマ）	

学習目標	1. 専門知識を用いて病態を中心とした事例に対する臨床判断プロセスを展開し、看護実践の思考と技術を習得する。 2. 多重課題の場面における臨床判断プロセスを展開し、優先順位の判断の仕方、他者との協働の在り方を理解する。 3. 看護師の臨床判断とリフレクションにより、自己の学習課題を明確にする。
テキスト・参考文献	＜参考文献＞ 1. 新体系看護学全書　看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド 2. 臨床判断ティーチングメソッド 3. アセスメントに自身がつく臨床推論入門
事前・事後学習	＜共通＞テキストと配付資料を熟読する。既習したことを復習してから授業に臨む。 病態を中心としたより適切な看護実践ができるよう思考と技術を学ぶ。

講義内容・方法	講義内容	講義方法
	1. ターナーの臨床判断モデルと実践論	講義
	2. 基本的な臨床判断実践－必要な情報に気づく、考える 事例：大腸がん術後１日目	GW・演習 個人ワーク
	3. 基本的な臨床判断実践－実際の情報収集	
	4. 病態アセスメント、予測される看護上の問題の明確化	GW
	5. アセスメント・看護上の問題点の共有と意見交換	全体発表
	6. 基本的な臨床判断実践－予測される事態への対応	演習
	7. 基本的な臨床判断実践－臨床判断・対応の振り返り	個人ワーク
	8. 基本的な臨床判断実践－臨床判断の共有と意見交換	GW 全体発表
	9. 複数患者の臨床判断実践－2事例のアセスメント 病態、優先順位、タイムマネジメント、他者との協働	個人ワーク GW
	10. 複数患者の臨床判断実践－2事例の看護の実践	演習、GW
	11. 複数患者に対する実践の臨床判断の共有と意見交換	全体発表会
	12. 予期せぬ事態への臨床判断実践－観察・アセスメント・報告・対応	演習、GW
	13. 予期せぬ事態への臨床判断実践－実践・共有と意見交換	全体発表会
	14.看護師の臨床判断 患者の捉え方の思考プロセス、優先順位の判断理由、実践	講義
	15.実技試験（OSCE） 観察～判断～実践～報告～実践	

評価方法	実技試験　50% 筆記試験　50%
履修上の留意点	

試 験 管 理 表

区分	教育内容	科目コード	授業科目		本試験	再試験		
基礎分野	科学的思考の基盤	1	論理的思考					
		2	教育学・スタディスキル					
		3	情報処理					
		4	医療情報学					
		5	人間工学					
	人間と生活・社会の理解	6	人間関係論					
		7	心理学					
		8	日本文化					
		9	社会・生活論					
		10	法と人権					
		11	スポーツと健康					
		12	経済学					
		13	外国語Ⅰ　医療英語					
		14	外国語Ⅱ　看護英会話					
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	解剖生理学Ⅰ	細胞、組織、骨格系、筋系				
		16	解剖生理学Ⅱ	体液・血液、循環器系、免疫系				
		17	解剖生理学Ⅲ	呼吸器系、消化・吸収・代謝系、腎・泌尿器系				
		18	解剖生理学Ⅳ	内分泌系、感覚器系、神経系、生殖器系				
		19	代謝栄養学					
	疾病の成り立ちと回復の促進	20	病理学総論					
		21	臨床微生物学					
		22	病態論Ⅰ	運動器系疾患				
		23	病態論Ⅱ	呼吸器系、血液・造血器系、免疫・アレルギー疾患				
		24	病態論Ⅲ	循環器系疾患				
		25	病態論Ⅳ	消化器系疾患				
		26	病態論Ⅴ	代謝・内分泌系疾患				
		27	病態論Ⅵ	腎・泌尿器系、生殖器系疾患				
		28	病態論Ⅶ	脳・神経系疾患				
		29	病態論Ⅷ	感覚器系疾患				
		30	臨床薬理学					
		31	治療法概説					
	健康支援と社会保障制度	32	現代医療論					
		33	看護関係法規					
		34	公衆衛生学Ⅰ					
		35	公衆衛生学Ⅱ					
		36	社会福祉学Ⅰ					
		37	社会福祉学Ⅱ					
専門分野	基礎看護学	38	基礎看護学概論					
		39	共通基本技術Ⅰ	看護過程				
		40	共通基本技術Ⅱ	ヘルスアセスメント				
		41	共通基本技術Ⅲ	安全・安楽とコミュニケーション				
		42	生活支援技術Ⅰ	活動と休息，環境調整				
		43	生活支援技術Ⅱ	食生活と排泄				
		44	生活支援技術Ⅲ	清潔				

区分	教育内容	科目コード	授業科目		本試験	再試験		
専門分野	基礎看護学	45	回復促進支援技術Ⅰ	検査と看護				
		46	回復促進支援技術Ⅱ	呼吸循環を整えるための看護				
		47	回復促進支援技術Ⅲ	治療・処置と看護				
		48	臨床判断基礎					
		49	看護倫理					
		50	看護研究					
	地域・在宅看護論	51	生活環境論					
		52	地域・在宅看護の対象					
		53	地域・在宅看護論概論					
		54	在宅療養者の生活支援技術					
		55	在宅療養者の健康状態に応じた看護					
		56	ケア・コーディネート					
	成人看護学	57	成人看護学概論					
		58	成人看護援助論Ⅰ	主な治療と看護				
		59	成人看護援助論Ⅱ	循環・内部環境・内分泌機能障害の看護				
		60	成人看護援助論Ⅲ	呼吸・生体防御機能障害の看護				
		61	成人看護援助論Ⅳ	消化吸収・栄養代謝・排泄・性生殖機能障害の看護				
		62	成人看護援助論Ⅴ	脳神経・運動・感覚器機能障害の看護				
	老年看護学	63	老年看護学概論					
		64	高齢者の生活支援技術					
		65	高齢者の健康課題・障害と治療					
		66	老年看護の実践					
	小児看護学	67	小児看護学概論					
		68	小児の生活支援技術					
		69	小児の健康課題・障害と治療					
		70	小児看護の実践					
	母性看護学	71	母性看護学概論					
		72	女性の健康課題・障害と治療					
		73	周産期看護の実践Ⅰ	妊娠・分娩期の看護				
		74	周産期看護の実践Ⅱ	新生児期・産褥期の看護				
	精神看護学	75	精神看護学概論					
		76	心の健康課題・障害と治療					
		77	精神看護の基本技術					
		78	精神看護の実践					
	看護の統合と実践	79	看護管理と医療安全					
		80	災害看護					
		81	国際看護					
		82	臨床判断実践					

[総合成績表]

番号		氏名	

八戸看護専門学校

分野	科目コード	科目名		単位	本試験	再試験	特別	単位取得	備考
基礎分野	1	論理的思考		1					
	2	教育学・スタディスキル		1					
	3	情報処理		1					
	4	医療情報学		1					
	5	人間工学		1					
	6	人間関係論		1					
	7	心理学		1					
	8	日本文化		1					
	9	社会・生活論		1					
	10	法と人権		1					
	11	スポーツと健康		1					
	12	経済学		1					
	13	外国語Ⅰ		1					
	14	外国語Ⅱ		1					
専門基礎分野	15	解剖生理学Ⅰ	細胞、組織、骨格系、筋系	1					
	16	解剖生理学Ⅱ	体液・血液、循環器系、免疫系	1					
	17	解剖生理学Ⅲ	呼吸器系、消化・吸収・代謝系、腎・泌尿器系	1					
	18	解剖生理学Ⅳ	内分泌系、感覚器系、神経系、生殖器系	1					
	19	代謝栄養学		1					
	20	病理学総論		1					
	21	臨床微生物学		1					
	22	病態論Ⅰ	運動器系疾患	1					
	23	病態論Ⅱ	呼吸器系，血液・造血器系，免疫・アレルギー疾患	1					
	24	病態論Ⅲ	循環器系疾患	1					
	25	病態論Ⅳ	消化器系疾患	1					
	26	病態論Ⅴ	代謝・内分泌系疾患	1					
	27	病態論Ⅵ	腎・泌尿器系、生殖器系疾患	1					
	28	病態論Ⅶ	脳・神経系疾患	1					
	29	病態論Ⅷ	感覚器系疾患	1					
	30	臨床薬理学		1					
	31	治療法概説		1					
	32	現代医療論		1					
	33	看護関係法規		1					
	34	公衆衛生学Ⅰ		1					
	35	公衆衛生学Ⅱ		1					
	36	社会福祉学Ⅰ		1					
	37	社会福祉学Ⅱ		1					
専門分野	38	基礎看護学	基礎看護学概論	1					
	39		共通基本技術Ⅰ　看護過程	1					
	40		共通基本技術Ⅱ　ヘルスアセスメント	1					
	41		共通基本技術Ⅲ　コミュニケーション、安全管理	1					
	42		生活支援技術Ⅰ　活動と休息、環境調整	1					
	43		生活支援技術Ⅱ　食生活と排泄	1					
	44		生活支援技術Ⅲ　清潔	1					
	45		回復促進支援技術Ⅰ　検査と看護	1					
	46		回復促進支援技術Ⅱ　呼吸循環を整えるための看護	1					
	47		回復促進支援技術Ⅲ　治療・処置と看護	1					
	48		臨床判断基礎	1					
	49		看護倫理	1					
	50		看護研究	1					
	／		基礎看護学実習Ⅰ　日常生活の支援技術	1					
	／		基礎看護学実習Ⅱ　看護過程	2					

＊：今回受験　　追：は追試

分野	科目コード		科目名		単位	本試験	再試験	特別	単位取得	備考
専門分野	51	地域・在宅看護論	生活環境論		1					
	52		地域・在宅看護の対象		1					
	53		地域・在宅看護論概論		1					
	54		在宅療養者の生活支援技術		1					
	55		在宅療養者の健康状態に応じた看護		1					
	56		ケア・コーディネート		1					
	57	成人看護学	成人看護学概論		1					
	58		成人看護援助論Ⅰ	主な治療と看護	1					
	59		成人看護援助論Ⅱ	循環・内部環境・内分泌機能障害の看護	1					
	60		成人看護援助論Ⅲ	呼吸・生体防御機能障害の看護	1					
	61		成人看護援助論Ⅳ	消化吸収・栄養代謝・排泄・ 性生殖機能障害の看護	1					
	62		成人看護援助論Ⅴ	脳神経・運動・感覚器機能障害の看護	1					
	63	老年看護学	老年看護学概論		1					
	64		高齢者の生活支援技術		1					
	65		高齢者の健康課題・障害		1					
	66		高齢者の疾患と看護の実践		1					
	67	小児看護学	小児看護学概論		1					
	68		小児の生活支援技術		1					
	69		小児の健康課題・障害と治療		1					
	70		小児看護の実践		1					
	71	母性看護学	母性看護学概論		1					
	72		女性の健康課題・障害と治療		1					
	73		周産期看護の実践Ⅰ		1					
	74		周産期看護の実践Ⅱ		1					
	75	精神看護学	精神看護学概論		1					
	76		心の健康課題・障害と治療		1					
	77		精神看護の基本技術		1					
	78		精神看護の実践		1					
	／	臨地実習	成人・老年看護学実習	急性期・周手術期にある人の看護	2					
	／			回復期・慢性期にある人の看護	2					
	／			リハビリテーションを必要とする人の看護	2					
	／			エンドオブライフケアを必要とする人の看護	2					
	／		小児看護学実習	子どもと家族の看護	2					
	／		母性看護学実習	マタニティサイクルにおける母子の看護	2					
	／		精神看護学実習	精神に障害のある人の看護	2					
	79	看護の統合と実践	看護管理と医療安全		1					
	80		災害看護		1					
	81		国際看護		1					
	82		臨床判断実践		1					
	／	臨地実習	在宅看護論実習		2					
	／		統合実習		2					
				今期取得できた取得単位数／総取得単位						

本試験で取得

◎：　再試験で取得
○：　特別認定で取得
●：　今回受験にて単位取得ならず、特別認定試験対象、または再履修対象
△：
×：　単位取得ならず、現在再履修中

八 戸 看 護 専 門 学 校

学 校 長　　虫 明　元

欠 課 数	
欠 席 数	